

The Life and Times of the Christ
Based on Luke.

By Wm. W. HAMMON, Pres., and Geo. S. GOODSPEED.

基督の生涯及時代

ヨルダ
グッドスピード

アメリカン・バプティスト・伝道會社出版

AMERICAN BAPTIST MISSIONARY
UNION.
1895.

166
703

020573-000-5

特61-854

基督の生涯及時代

ウィリアム・ハーバー
ジョルヂ・グッドスピード
／著

M28

ABI-0387



166
703

The Life and Times of The Christ
Based on Luke.

By Wm R. HARPER, Pres., and Geo. S. GOODSPEED.

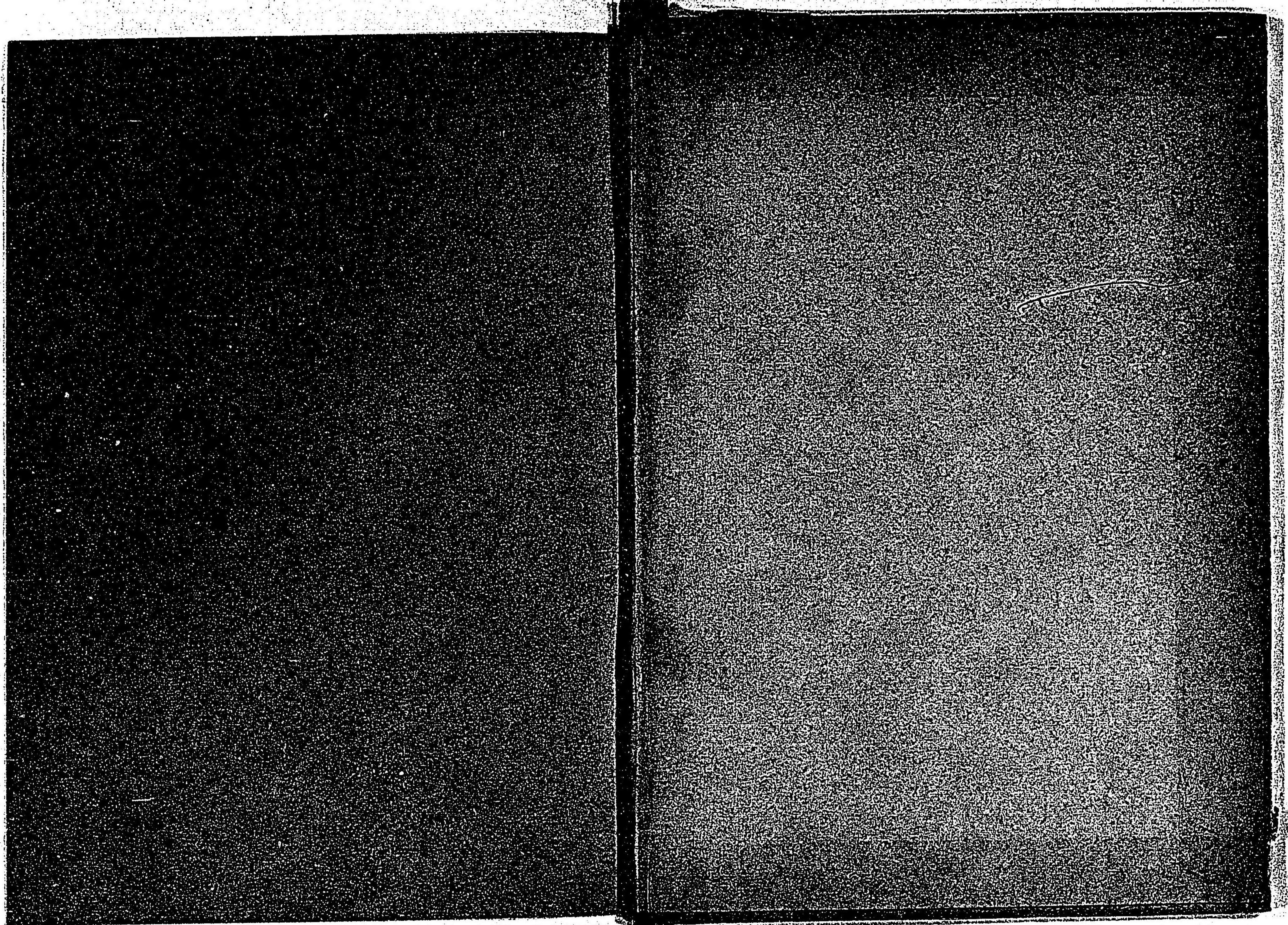
基督の生涯と時代

博士ウイリアム・ハーバー
とジョージ・グッドスピード
合著

バプテスマ传道會社出版

AMERICAN BAPTIST MISSIONARY
UNION.

1895.



特 61 三
854

The Life and Times of the Christ,
Based on Luke.

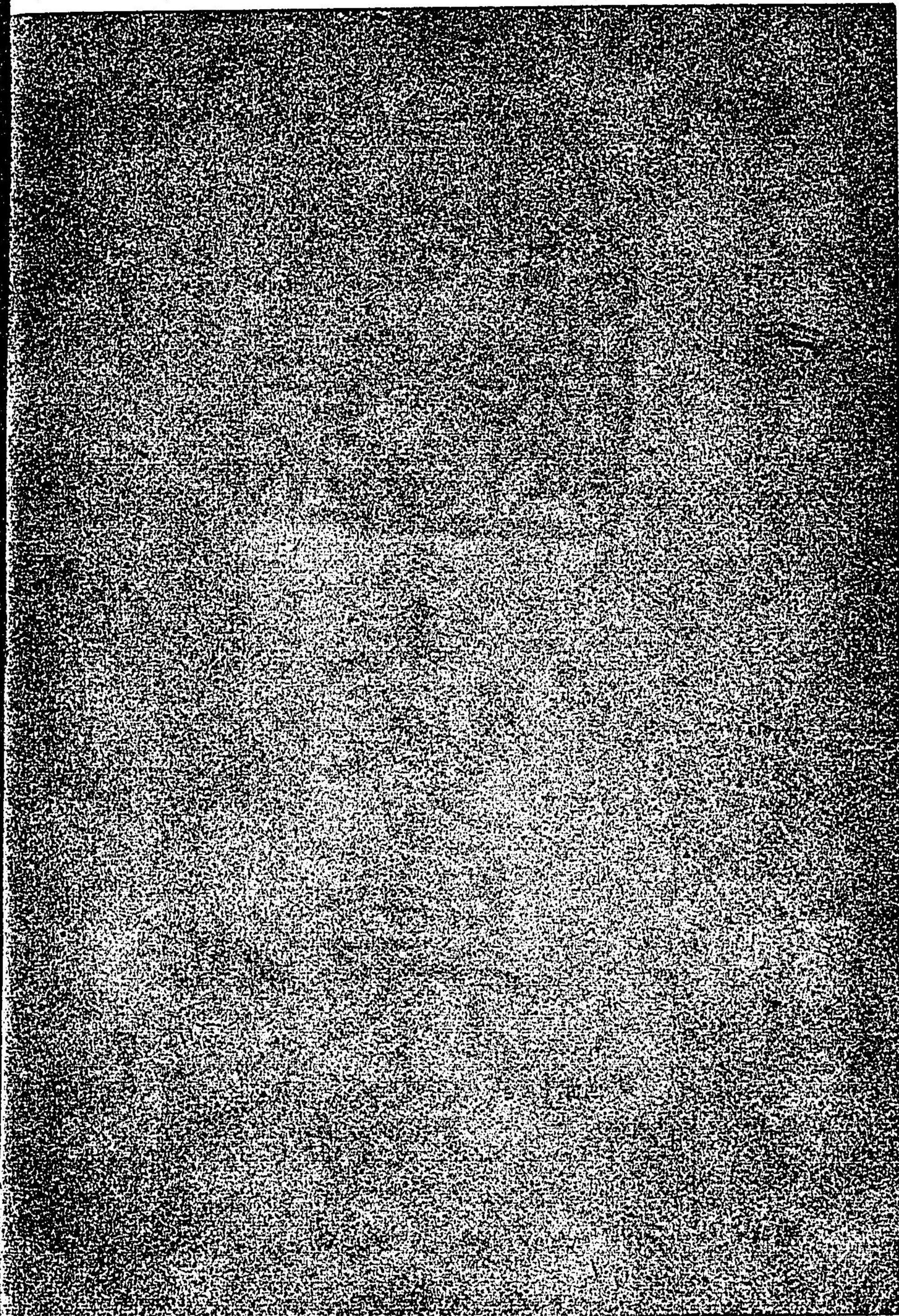
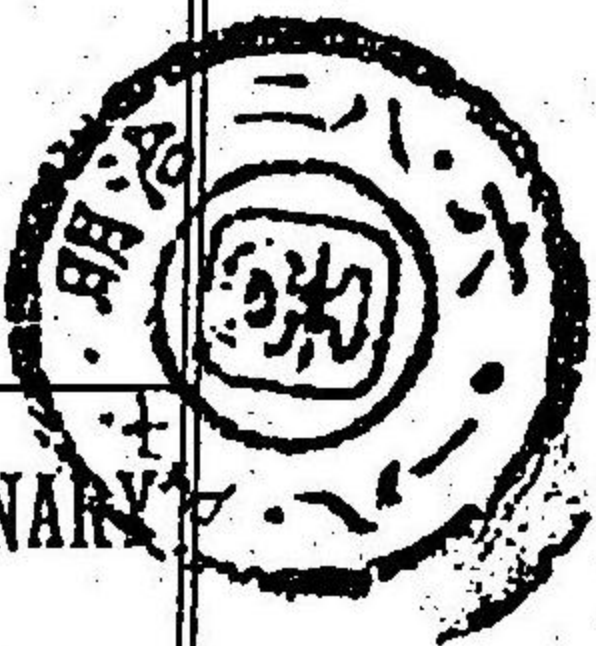
By Wm. R. HARRIS, Pres., and Geo. S. GOODSPEED.

基督の生涯及時代

博士ウイリアム、ハーバー
ジョルヂ、グッドスピード
合著

バプテスマ傳道會社出版

AMERICAN BAPTIST MISSIONARY
UNION.
—
1895.



左に所載の書簡は本書の翻譯に對する博士ハーバー氏の承認
狀也掲げて緒言に代ふ唯一言しおくべき事の本文中特に考究
を要する「語句」の爲に新に路可傳を翻譯するの必要おこりし事
是なり幸にも亞米利加傳道會社の承諾を得て之が翻譯を成し
本書に次で出版する事となりぬ今正に最後の校正に忙し日な
らずして印刷に付するの運びに至らんとす讀者此兩書を對比
して學まば豈多少の裨益なしとせんや若し夫れ兩書中譯語に
相違の廉あるは再閲して修正したるに因て也願くは聖恩豊か
に凡ての讀者の精神を啓發して救主イエスキリストを敬愛す
るの念を強められんとを

拜呈、貴下への拙著「基督の生涯及時代」を翻譯して出版せらるる由、欣喜此事に御座候。此書の日本人にして其國語を以て聖書を歸納的に考究せんと欲する者の鎖鑰として大に價值あるものと存候。若し必要有之候へば拙者承認の事實を御公示あるも差支無御座候。御出版の上一卷御惠授を得ば幸甚。

紀元千八百九十四年四月十六日

シカゴ大學校長 ツイリアム、アール、ハーバー

在日本横濱 レベレント、エ、エ、ベンネツト殿

ウリアム、アール、ハーバー、グッドスピード 合著

基督の生涯及び時代

(路可の福音書に據る)

緒言

(一) 路可の福音書に基て基督の生涯を調査研究せんが爲

に四十八課程を續出せんと欲す而して是れ其第一課程也

(二) 之が課程を掲げたる目的の調査研究して得たる結果を示す

(三) 之れ専門學者の爲に設くるに非ずして何人を問はず聖書を

學ばんと欲する者の一助とあさんと欲する也

補助 (一) 善良なる註解書を見て參考に供するの良し左の書の

基督の生涯及び時代

如き補益あり且つ廉價なるを以て特に之を推薦せん

- (1) *Cambridge Bible for Schools*, St. Luke, by F. W. Farrar, D.D., Macmillan & Co. (N.Y.), \$ 1.10 (略せよ Farrar); (2) *Hand-books for Bible Classes* St. Luke, by T. M. Lindsay, D.D., 2 vols., Scribner & Welford (N.Y.), \$ 1.50 (略せよ Lindsay); (3) *The Handy Commentary*, St. Luke, by E. H. Plumptre, D.D., Cassell & Co. (N.Y.), \$ 1.00.

(二) 此課程の往々左の數書に引証を採らん

- (1) Van Oosterzee on Luke in the Lange series (略せよ Van O.); (2) the Pulpit Commentary, St. Luke, 2 vols. (*Pulp. Com.*); (3) Godet on Luke, 2 vols. (*Godet*); (4) Westcott, *Introduction to the Gospel* (*Westc.*); (5) Stapfer, *Palestine in the Time of Christ* (*Stapf*.)

以上の其重なるもののみ此他尙は多くの書あり

(三) イエスキリストの傳の其誰の手に成りしやを問ひぞ此課程に少からざる補益を與ふるものにして實に欠くべからざる也就中 *The Life of Christ*, by Rev. J. Stalker, Scribner & Welford, 50 cents. の冊子小なりと雖も其眞價誠に大冊の書に劣らず

Farrar, Geikie, Eldersheim, Vallings, and Ellicott. 諸氏の書皆益あり

又 *The Life of Christ*, by Dr. B. Weiss, Scribner & Welford (N.Y.), 3 vols. \$ 9.00. の獨逸學者界に於ける最近最良の書にして之れ精細なる研究をなさんと欲する學者に有益也

(四) 此課程を學ぶに當り善良なる字典の大に補益を與ふるもの也 *The American Sunday School Union's* (*Schaff's*) *Dictionary of the*

Bible, \$ 2.00 (良し Smith's Bible Dictionary の一 大字典にして Houghton, Mifflin & Co. (Boston.) の出版に係り 四冊(\$ 20.00)也

(五)補助を是等の書籍に仰ぐの可ありと雖も之が爲に本文の學課を研究調査するとを忽にすべからば此の主にして彼の從也此「課程」の重なる目的の學生をして各々自己の經營を成さしむるに在り

(六)此課程の校正新約聖書に據りて組立てられたるもの也故に學生の他に何等の補助を仰がざるも之れ亦くんばあらず必ずや一本を坐右に備ふべし其註釋書に優るものたるや言を俟たず

等級 此課程の等級を分て四とあす第一即初級の聖書の初學

者の爲に設け第二即中級の稍進歩したる者の爲に設け第三即上級の一層進んで此種の研究調査に幾分の經驗を積みたる者の爲に設け而して第四即高等級の尙一段高尙ある域に進んで學ぶとを得る資格ある者の爲に設けたる也茲に唯高等級の課程を出版したるのみ

課程第一及び第二 (一章自一節至五十六節)

注意 各課程を學ぶに當り其全節を讀誦して記事の重なる部分を観察するを要す

(一)材料の考試

左の順序方法の常に此課程に必要あるが故に宜しく記憶すべし

(一)一節或ハ一句を讀んで其大体の主意を領する事(二)大切なる字句或ハ難解の字句を考究する事(三)一節或ハ一句の主意を解釋し大切或ハ難解の字句を考定し而して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯ハす事(四)宗教上の教訓を學ぶ事

其一 (二)章自一節至四節

(一)之を讀んで其主意を臆へよ、之れ路可福音書の發端、性質、目的に非ずや
 (二)字句に就てハ左に示す所のものを考究するを要す(一)“have-taken-in-hand” “手を下して”ハ使九〇廿九の“vent-about” “圖る及び使十九〇十三の“look upon” “試みる”と同一の意味にし

て均しく希臘語より譯出せられたるもの也而して此語ハ之れ基督の生涯を記載ねんと企圖したる多くの人々が多少蹉跌したることを暗示するものに非ざるか (一)“those matters” “事”とハ即基督の生涯 (三)“delivered” “傳へし(二節)とハ重に口舌に依て傳へし也而して之れ可七〇三使六〇十四、哥前一〇二廿三に在る語と同一のものぞ知るべし (四)“which” “我儕に關するに非ずして「彼等」に關する關係代名詞也 (五)“eye-witnesses and ministers” “見て聖語に役へたる者”とハ重に使徒を指す (六)“traced-the-course-of” “事跡に沿ひて調査たれば(三節)の直譯ハ“followed-alongside-of” “追ひ從ふ也 (七)“in order” “次第を爲して”とハ時の順序なるか將論理的、精神的關係

の順序なるか、此福音書を逐次學ぶとに由て定めらるべし
 (八) “most-excellent” “貴き”との恐く、官職上の尊稱をいひしき
 るべし使廿三〇廿六同廿六〇廿五を参考せよ (九) “know” “曉
 る”に、充分且明晰に、副詞ありと知れ (十) “wast-instructed”
 “口づから教へられし”に “dist-recvie-oral-teaching” “言を以て教
 へられし”と云ふ一層良し
 (三) 是等の節に含有せる事柄を左の如く言顯すとき、充分あ
 らずや

「貴きテヨビロよイエスの生涯の事跡の使徒等が我儕に傳へ
 し所のものを基礎として古來多くの人々の完備を期する所
 あるが我も汝をして汝が已に説き教へられし所を確實に明

白に曉らしめんが爲に諸事を穿鑿して秩序ある物語を記載
 ねんと念ふあり

(四) 路可のイエスの生涯に關する事實を明白にし確實にせんと
 欲して努めたり蓋し信仰の確立の之が事實の確立に因る事
 を視たれば也故に吾人の其事實を學んで之を確むるの義務
 ある者あるとを心に銘すべし

其二 (一章自五節至七節)

(一) 之を讀んで其主意を臆へよ、之れザカリヤと其妻の生涯品
 性を言ひしものにあらずや

(二) 考察すべき字句の左の如し、(一)「ヘロデの年紀經歷品性」(二)
 “course of Abijah” “アビアの定日勤を爲す班”に就て、哥前廿

三〇六同廿四〇一十を参考せよ而してイエスの年代記に於ける之が要用なる關係を釋ぬべし (三) "had no child" "子なし" (七節) 之れ不幸として認められたり其故如何 (三) 此三節を省約して左の如く言ふを得

「ヘロデ王の時ザカリアと云へる祭司と其妻エリサベツと云へる者あり共に義人なれども年老て子なかりき」

(四) 熱心に願望せる事の更に應驗なきにも拘らず廉直敬虔にして終始渝へらざる和氣靄然たる此家庭を視て學べ

其三 (一章自八節至廿五節)

(一) 是等の節の天使がザカリアに現はれて告ぐる所ありし事と其告げし結果とに關係す

(二) (一) "it came to pass" 「事となりぬ」(八節)の舊約書の熟語にして此章に之と等しき意味にて用ゐられたる多くの希伯來熟語の一也 (二) "thy supplication" 「爾の祈禱」といふ子を得んが爲めの祈禱なるか果して然らば十八節にいへる天使の告知を信せざると撞着せざるか或の約束されたるメシア 即ち基督の來らんとを祈りしなるか (三) "John" 「ヨハネ」其意義如何 (四) "there shall be wide-spread joy as a result of his birth" 「多くの人も亦其生るゝに因て悦び有ん」(十四節) 此預言の何様に完ふせられし乎 (五) "filled with the Holy Ghost" 「聖靈に満さる」(十五節) どの舊約書の意味より云ふとさの神に奉仕するに要せられたる恩賜を與へらるゝ事也 出卅一〇三、士十三〇廿五、母前十

一〇六を看よ (六) "go before his face" 「主の面前に立て往く」と
 即主の先驅者たらんの意なり (七) "fathers to children etc."
 「父の心の子に向ひせ云々」父とい一家の父を云ふなるか將た
 アブラハム。イサク。ヤコブ等を云ふなるか子とい一家の子を
 云ふなるかアブラハム等の子孫を云ふなるか即ち家内の紛
 擾を治めしむるの謂乎將たアブラハム。イサク。ヤコブの時代
 を想起せしむるの謂乎 (八) "seen a vision" 「異象を見る」(廿
 二節)の十一節の "appear" 「現われる」と對照して明か也 (九)
 "reproach" 「恥」の何故に之れありや
 (三)之を省約して左の如く云ふとを得
 (五)自八節至十二節のザカリア殿に香を焼く時天使現はれて

彼を驚かす事 (六)自十三節至十七節の天使の言にして「即ち
 聖靈に由て與へられたる權能を有して主の先驅者となり主
 の爲に人民を備へんとするヨハ子と名けらるべき子を擧ぐ」
 どの天使の言 (は)自十八節至廿五節のザカリア事の奇異な
 るを疑ひ爲に天使の言の完ふせられたるまで瘡となりたる
 事並に彼家に飯へりて後妻エリサベツ孕みて隠れおる事
 此事柄を總括して云ふときい天使ザカリアが祭司の職を行
 ふ時に現はれて之に主の先驅者たらんとするヨハ子と名け
 らるべき一子の生るゝことを告ぐザカリア之を疑ひ瘡となり
 て家に歸へる而して其告示將に完ふせられんとす
 (四)之に就て學ぶべき事の左の事實ならずや

神の爲に精神的な事業を爲すべき者が祈禱の應驗として或方法に依て與へられたる事斯る人物を得んとを期せざる者に與へられたる事之が大事業に當る者の克己忍耐ならざるべからず而して聖靈に充たされざるべからざる事蓋し斯る人こそ眞に神の前に大なる者なれ

其四 (一章自廿六節至卅八節)

(一)是等の節を讀む者の如何に天使がマリアにイエスを生んとを告示したるかを了知せん

(二) (一) "A virgin betrothed" 聘定せし所の處女 廿七節に就ての猶太人中に於ける聘定の事を調べて學ぶ所あるべし (二) "highly favored" 恵まれたる者よ云々のマリアの品性に何等の光を

添へし乎 (三) "troubled" 訝るのと何故乎 (四) "Jesus" イエスの

の意義如何太一〇廿一を見よ (五) 卅二節卅三節の完ふせられし乎何故に完ふせられざりし乎 (六) "handmaid" 婢の一字

マリアの品性に何等の光を添へし乎

(三)是等の節に含有されたる事柄の斯く言ひるを得ん

天使マリアと名けられたる聘定せし所の處女を見舞ひ祝して告げて曰く聖靈爾に臨らん而して爾のイエスと名くる一子を擧ぐ之れダビデの世嗣たるべき子にして即ち神の子なり エリサベツ亦神の約束によりて一子を擧ぐんとマリアの其告示に黙從せり

(四)言ひ盡し能はざる程悦ぶべき事なるも未だ嫁せざるの身を

以て此事ありとの信すべからざると同時に亦恥おき能はず之れマリアの心底なり然れども其謙讓從順にして常に敬虔なる誠に學ぶべき所なりとす

其五 (一章自卅九節至四十五節)

(一)此數節を讀め而して其主意の「マリアがエリサベツを見舞ひしと」に在りや否を考定せよ

(二) (一)「went in haste」急いで往く卅九節との道中を急ぎしとあるが何故に急ぎし乎 (二)「hill-country」山地との何處乎 (三)「She that believed」信せし者(四十五節)てふ語の「マリアの品性に一段の光を添へり」
(三)左の重要ある事柄を隠へよ

マリア急いでエリサベツの許に行く事、マリア、エリサベツの家に入りし時エリサベツ聖靈に感されてマリアを主の母として賀し約束の必ず成らんとを保して其信仰を祝する事
(四)之を讀んで同情同感の必要を感じ其有益あることを念ひざらんや

其六 (一章自四十六節至五十六節)

(一)之をマリアの聖詩といふを得る乎
(二) (一)四十六節と四十七節を善く讀め文体異なるも思想の則ち一あり之れ二行同意の詩と呼べられたる希伯來特質の詩あり他に斯る例を見出せ (二)此詞を舊約書中ハンナの歌(母二〇一—十)と比較し亦詩卅五〇九同百十一〇九同百三〇十七同

九十八〇一賽卅一〇八米七〇廿と對照せよ (三) "all genera-
 lions : etc. 一萬世まで云々"の「マリアの信仰に光を添ゆ (四)五
 十二節の反對の思想を言顯のせり之れ所謂二行反意の詩也
 五十三節亦同じ (五)自五十一節至五十三節を「マリアの時代
 の事情によりて考ふれば何等の意味ありや之れ世界に於け
 る神の尋常普通の行為に属するものあるか將た神の基督の
 降誕に依り其生涯に頼て之を爲さんとするか
 (三)此詩に含まれたる主意の特に考究するの價値あり請ふ其四
 句を視よ (一)四十六、四十七節我靈魂の我救主ある神を喜ぶ
 (二)四十八節—五十節(彼救主)の今より後萬世までも我を福な
 る者と稱ひて祝し以て其權能ある事聖なる事矜恤ある事を

顯のし給ふ (は)五十節—五十三節其矜恤の彼が凡ての奴婢
 に及ぶとい心の驕れる者を散し卑賤者を擧げ給ふ所の聖力
 に由て顯のる (に)五十四、五十五節彼の民に及べる此矜恤の
 聖なる約束の完ふせらるゝとに在りて存す
 (四)民を高むる事民を保護する事民の爲に聖なる約束を完ふせ
 らるゝ事を謳歌せる此詩の神を畏るゝ者に及べる神の矜恤
 を明にするものに非ずや

(二) 材料の類別

第一 本文に含有せる事柄及び其總括

(一) 本文に含有せる事柄 左に掲ぐる材料の類別を熟讀して善く之に通ずるを要す

序言

- (い) 此福音書の起源、性質、目的
 - (ろ) ザカリヤ及び其妻の生涯、品性
 - (は) ザカリヤに天使の臨みたる事及び其結果
 - (に) マリアに天使の現われたる事
 - (は) マリア、エリサベツを見舞ふ事
 - (へ) マリアの詩
 - (二) 總括 一節—四節の緒言なるを以て之を略き本文に含有せる事を類別して示したる上の目録に因て全体の意義を總括せよ例せば
- ヘロデ王の時天使老祭司ザカリヤに其妻エリサベツが主の

先驅者たるべき一子を擧んとを告げ後亦聘定せし所の處女
 マリアに告ぐるに聖靈彼女に臨りて神の子イエス、キリスト
 を擧んとを以てすマリア謹で其告示を拜受し急いでエリサ
 ベツの許に行きしにエリサベツ、マリアを主の母として祝せ
 りマリアの神が心驕れる者を散し而してイスラエルに約束
 し給へしとを完ふして以て自己並に凡て卑賤者を祝福せら
 るることを喜びて神の矜恤を謳歌せり

第二 材料の視察

左に云ふ所の事實、結論の本文に關して緊要なるものなるが故
 に熟讀して善く味ふを要す

(一)(二) 基督と偕に働きたる者の基督に就て見聞せし事を信

者に告げたり

(二)(一〇一、三)以前の記者が基督の生涯に就て言顯へしたるとい
此福音書の記者を全く満足せしめざりき

(三)(一〇三)路加の此福音書を記載せんとするに當り(一)原より諸
事を(二)詳細に考究して(三)順序ある排列を爲し(四)以て精確全
備を期せり

(四)(一〇一—四)序言に因て觀れば此福音書の教育ある且文學的
實力を有する人の手に成りしものなるを知る

(五)(一〇四)此福音書の基督の生涯に關して大体の主意に通曉せ
る基督信者に對し其信仰を確立せしめんが爲に書かれたる
もの也

(六)(一〇五)五節以下の文体一變して希伯來詩歌の特質を見る

(七)(一〇五—五十六)天使の二度の見舞及び他の不可思議なる四
事

(八)(一〇五—五十六)全体の記事を見るに善く留心注意して一言
一句苟もせざる事蓋し婦人妊娠の秘事に關すれば也

(九)(一〇五—五十六)記載されたる人々の基督の來降を期望せり
(十)(一〇五、七)主の先驅者の祭司の家族より出でく自ら預言者た
らんとす

(十一)(一〇八—十一)記載せる祭司の職に就て其幾分を學べ

(十二)(一〇卅五)天使の此推理の斯く云ゆるを得其子の聖なる
べき者なるが故に聖靈爾に臨るべしと即ち基督の品性の此

不可思議なる出来事を必要ならしむ

(十三)一〇四十六―五十五)マリアの詩の舊約の反響にして之れ彼女が舊約に通曉せることを示すもの也

(十四)三節に因て觀れば此物語のマリア自身より路加に傳へられしものには非る歟惟ふに其れ或は然らん

第三 學課の題目

(一)古代福音的文學(一、二節を視よ) (二)斯文學の使徒の口演に起源せり (三)使二〇廿二―廿四卅二―卅六、四十二同十〇卅六一―四十三約一〇一―一三を見而して使徒等がイエスの生涯に關して教訓せし所を視よ彼等のイエスの死と甦に就て之を証明せんとして大に努めたり彼等の目的の單に之を聽く者

に告ぐるに非ずして聽者を改心教化するに在りき (三)其口演に基ける記録の果して完全なるか連續的なるか破碎的なるかを考究せよ (四)其記録の歴史上の性質を調査せよ (五)其記録に於ける路加の觀念如何

(二)路加の福音(三―五を見よ) (一)此福音書の記者に就て証據立てたる古の聖なる記者の言ふ所を學べ (二)路加に關する事實を知る爲に西四〇十四、十一をも見よ提後四〇十門廿四を讀め (三)路加の果して此序言(一―四)の記者たるに適當せる精神的資格を有せし乎 (四)此福音書が教化を目的とせることを考ひて之を約廿〇卅卅一に比較し此書の性質順序、排列を制定して之が事實の大切なることを視よ

(三) マリアへの使者(十二―十四を見よ) (二) 廿八、卅四、卅八、卅九、四十五、四十七―五十六節より蒐集せられたる材料を以てマリアの人と爲りを描け (二) マリアの品性の神の撰擇に應へて爲す所あるに足るや否を考定せよ (三) 歴史上指定する所を研究して卅五節の出來事を深く考究せよ而して之に關する証明の新約書中甚だ寥々たるを認めて其何故なりやを知れ

第四 宗教上の教訓

各節句に含有せる宗教上の教訓を總括して言へ之れ豈救主に關する宣言にあらざるや而して亦之が爲めの準備にあらざるや其凡て神の奨勵に起源せる事凡て神の約束に依れる事凡て神の敬虔なる婢僕の中に其準備を爲し始むる事救主

の人間をして其先驅者たらしめし事救主の神の子なるも亦マリアの子なる事

課程第三 第四 ヨハ子及びキリストの誕生其幼時

(自一章五十七節至同二章五十二節)

(注意) 各課程を學ぶに當り (一) 前課程の材料を再閲し (二) 現課程として定められたる全節を通讀して其事柄の重なる部分を了知するを要す

(二) 材料の考試

左の順序に常に此學課に欠くべからざるものと知るべし (一) 一節或ハ一句を讀で其大體の主意を領する事 (二) 大切なる字句或ハ難解の字句を考究する事 (三) 一節或ハ一句の主意

を解釋し大切或の難解の字句を考定して而して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯の事

其一 (一〇五十七—六十六)

(一)之を讀で其主意を臆へよ即ちヨハ子の誕生及び之に關する出來事是也

(二)左の語句の有益なる書籍の補助に依りて考究せらるべきものとす (一)“eighth day”第八日(五十九節)創十七〇十二と對照し見よ (二)“would-have-called”名けんどす直譯英語の“were calling”即ち“wanted to call”なり (三)“made-signs”領いて云々(六十二節)之に因て觀るにザカリアの聲なりしか(四)“writing-tablet”寫字板(六十三節)普通字典或の聖書字典を見よ (五)

“marvelled”奇めりどの父母期せずして恰も符節を合するが如く共にヨハ子と名くべしと云ひしことに因る乎(六)“noised-abroad”徧く傳播す(六十五節)之に因てルカハ斯く是等の實事を知り得たるならん (七)“hand of the Lord”etc.主の手云々(舊約の一句也士二〇十五喇七九を參考せよ

(三)是等の節を省約して言ひ左の如きか、

エリサベツの子歡喜の中に生れ割禮を受けて父母よりヨハ子と名けられたり父の口直に啓けて神を讚美せり是等の事ハ之を聞きし所の諸ての人々を動かして奇み懼れしめ以て此子の未來を想ひしめたり

(四)ヨハ子てふ名の付せられたるを考ひ其父母の生涯信念を

察し且此子に於ける隣里一般の豫望を考ふるどきの幼時より早く已に敬虔的勢力の彼が頭上に與へられたるを見る而して其正義の中に生育發達するや固より尋常普通の小兒と日をおなじして語るべからず

其二 (一〇六十七ー七十九)

(一)之を讀で其主意を言顯せ

(二)(一)“Propheesied”「預言す」六十七節是れ即ち預言の復興也但し如何なる意味にて是を預言と云ひし乎 (二)“hath-wrought-redemption”「贖を爲し」六十八節直譯英語の“wrought-redemption”也之れ未來に屬する事なるに過去の事として考察せられたる“redemption”「贖」に同じ蓋し之れ政治上

の自由即ち壓制者の手よりの救ある乎將た國民としての罪よりの救なる乎 (三)“horn of salvation”「救の角」六十九節詩十八〇二同九十二〇十を参考せよ (四)七十四節の第一國家の自由第二個人の正義を云へる也 (五)“remission of sins”「罪の赦し」七十七節民其罪の赦されたるどきの救拯の近きにあることを知るならん (六)“the dayspring”「昇る光」七十八節「リンドセイ」の説明を見よ
何に因て「昇る光」といふや按ずるに七十八、七十九節の思想の左の如けん
一隊の商賈の途に迷ひて沙漠の中に彷徨へ不運なる巡禮の咫尺を辨せぬ暗夜に途方に暮れて死を期ちつゝ坐しぬ圖ら

ざりき煌々たる星光忽然地平線に現れて平原を照さんど
の旅人之を見ても勇氣を鼓舞し起て其星の光を便りに進み遂
に其旅の目的地に導かれ往きぬ(ゴデット氏の言)賽九〇二、太
四〇十六を参照せよ

(三)此詩に含まれたる事柄を左の如く言へ

即ち (一)六十八―七十古より預言者の言ひしが如くダビデ
の血統の權威ある救主に依て來りて其民を贖ひたる神の讚
美べき哉 (二)七十一―七十五神の古の聖約に基き矜恤を以
て我儕を敵の手より救ひ聖と義に於て永久主に事へしめん
とす (三)七十六―七十九此兒の第一神の矜恤に賴て赦免の
得らるゝと第二暗澹たる失望界より導かれて平和の路に

至るを得る事を宣言して以て至上者の道を準備せんとす、之
を總括して云ふとき、預言の如く救主として來れる神の讚
美べき哉、聖約に基て我儕を敵より救ひんとす、而して此兒
の赦免、救拯の先驅者として我儕が聖く主に事ふるの道を備
へんとする者也

(四)之れ救主に賴て得らるゝ赦免、平和、救拯の源の神の矜恤なる
とを特に明にせるものに非ずや

其三 (二〇八十)

(一)其主意如何ヨハネの幼年時代是也

(二) (一) "Strong in spirit" 「精神强健」之れ柔和の部分例へば愛の
深き事の如きを暗示せるものなるか、嚴格の部分例へば爾の

蝮蛇の子孫也といふが如きを暗示せるものなるか (二) "Des-
 erts" [野]の何處乎 (三) "shewing" [顯]なるの路十〇一
 の "appointed" [立]て使一〇廿四の "chosen" [選]びと同意義にし
 て即ち其公職に立てらるる事也
 (三) 之を總括してヨハ子の強健なる精神を以て生長し其職に就
 くまで野に居れりと云ふ可ならずや
 (四) 之れヨハ子が其職務の準備を爲さんが爲に暫く浮世より遠
 かれる智慧を暗示するものに非ずや

其二 (三〇一七)

(一) 此數節を讀で其大体の主意を言顯らせ
 (二) 左の語句を考究せよ (一) "decree" [詔命]之れ歴史上不明瞭に

して確知するに苦しむ所也 (二) "Caesar Augustus" [カイザル
 アウグスト] 聖書字典等を参考せよ (三) "enrolled" [戸籍を
 調査べる] 軍事の爲めか租税の爲めか (四) "first enrolment"
 [初次の戸籍調査]と云へるを以て見れば第二の戸籍調査あり
 し乎使五〇卅七を参考せよ (五) "Quirinus" [クニニオ]之れ歴
 史上明知するに苦しむ所なるが故に Farrar 及び Lindsay の
 書を見よ (六) "Bethlehem" の何處乎 (七) "betrothed" [聘定せ
 る] 五節の "married" [婚姻せる]と同じ唯未だ同衾せざるの
 み太一〇廿五を参考せよ (八) "first-born" [冢子] 七節と云へる
 を以て見れば他に子供を擧げたるを含むか來一〇六を参
 考せよ

(三)之を省約して試に左の如く云はん學生宜して考究すべし
 クレニオスリアの知事たりし時に與へられたる勅命を守り
 てヨセフ時の習慣に従て聘定の妻と俱に祖先墳墓の地ある
 ベテレヘムに行けり其處にマリアの一子を生み布に裹みて
 槽に臥させたり

(四)是等の事情に關し宗教上の教訓として學ぶべき事の救主の
 卑賤の中に降誕せられし事は也

其五 (二〇八一廿)

(一)是等の節の牧羊者への告示及び其結果なりと云ひ得る乎
 (二) (一) "in the field" 野にて春夏秋冬何れの時あるか學者往々
 意見を異にすれば須らく考究すべし (二) "glory of the Lord" 主

の榮光王上八〇十一十を參考せよ (三) "Christ" キリスト即
 ち救の主他の譯語を參考せよ (四) "sign" 徴十二節何故に之
 れ徴たるを得るか (五) "in the highest" 天上に (六) "men
 in whom" etc. 其喜ぶ所の人々に云々之れ凡ての人が之に沐
 浴するの謂乎將た神の選み給へし者のみの謂乎(七)十四節此
 三段比較の詩を學べ即ち榮光と平和神と人天上と地是也
 (三)是等の節を左の如く言ひ得るか
 夜間群羊を守る所の牧羊者天使よりキリストの降誕に關す
 る喜ぶべき出來事の消息を聞く其時倏ち天軍現れて神を讚
 美し人に於ける平和を説く牧羊者乃ち行て嬰兒と其兩親を
 見之に語るに天使の告示を以てせしにマリア之を聞て思ひ

想らしぬ、牧羊者等事の奇異なるに驚き神を讚美して返れり
 (四)之れ神が救主の降生を以て民の最も卑賤しき階級と重大なる
 關係あるものとして視給ふとを教ふるものに非ずや
 個人の宗教的生活が初めて眞價を得て神の愛する所の聖なる
 者となりしに實にイエス降誕の時に在り

其六 (二〇廿一—廿四)

(一)之を讀で其主意を臆へよ、之れ割禮の事、イエスと名くる事、
 エスを獻ぐる事に非ずや
 (二)大切或の難解と思ふ五六の語句を撰出し有益なる書籍の補
 助を藉りて善く之を考究せよ
 (三)是等の節に含有されたる事柄を斯く言ひ得る乎

此兒割禮を受けてイエスと名けられ而して律法に従て適當な
 る獻物と共にエルサレムに於て主に獻げられぬ
 (四)イスラエルの民を救はんとする彼が彼等の中に立てられた
 る律法及び宗教上の習慣に従へしとを視よ

其七 (二〇廿五—卅九)

(一)是等の節を讀め而して其シメオンとアンナの証言を學べ
 (二)左の語句を考究せよ (一) "Consolation of Israel" "イスラエルの
 民の慰められんこと" 即ちキリストの來る事、賽四十〇一を
 參考せよ (二) "for revelation to the Gentiles" "異邦人の爲に
 の默示云々" (卅一節) 彼等をして之を見て來るとを得さしめん
 爲め也、又シメオンの靈魂に關する達觀に注目せよ、賽二〇二

同六十〇一―三を参考せよ (三) “marvelling” “奇しむ” (卅三節) 彼が嬰兒の事を善く知れる事及び其預言の驚くべきものなる事を奇みし也 (四) “falling and rising” “仆ると起る” (卅四節) (五) “sign” “號” 之れ暗に反對を示す (六) “a sword” etc. (劍) 云々 (卅五節) 此愛の彼女の疑察と不信念の故なる乎 將た彼女の見に入々の反對するが故なる乎 (七) “spoke of him to all” “凡ての人に此子の事を語り” (卅八節) 恐く之れルカが此事に於ける智識の源ならんか (八) “returned” “返れり” (卅九節) 茲に太二〇一―廿二に録されたる出來事の省かれたることを臆へよ而して二者の記事の撞着せる事を考究して之を解明せよ

(三) 之を左の如く總括せば如何

敬虔なるシメオンのヨセフ、マリアに遇ひ而して死する前に必ず見るべかりしキリストを其幼稚の時に見たり彼の万民の救主を眼前に拜するを得て神に感謝せり彼の驚く兩親を祝福してマリアに告ぐるに此兒は號として立てられたれば彼女に憂苦なるも或者の之に反き或者の之に皈し以て衆心の念の露れんとを以てせり

(四) 之が緊要なる宗教的教訓の此世にキリストの顯現の万民に深き關係ある事而して之に依て猶太人(信者)と異邦人(不信者)の思想が露るる事に在りて存す

其八 (二〇四十一―五十)

(一)是等の節を讀め、假りに之が主意を逾越の節筵の爲に殿に行く事と云へん學生宜しく其適否を考へよ

(二)學ぶべき語句の左の如し (一) "parents went every year" 「兩親毎年往きぬ之れ」マリアの品性を照す所ある乎 (二) "twelve years old" 十二歳の時之れ猶太人の小兒が他國の小兒と發達の異なる点にして吾人(亞米利加人を指す)に比して生育の度早し即ち卅三、卅四の記事を見て知れ (三) "doctors" 「教師」(四十、六)との法律の教師也此時彼の一書生として坐しぬ (四) "thy father and I" 爾の父と我(四十八節)此意義如何 (五) 四十九節之れイエスが初めて言ひしものにして深意の存する所の單に父と云ふすして「我父」と云へしに在り乃ち知る彼が神と無上

の關係を有するを自覺せるを

(三)左に省約して言ふ所を考へよ

兩親の當時の習慣に従て十二歳のイエスを伴れて逾越節に往き其勤めを卒へて返れり、飯路イエスを見失ひしが、尋ねて其智慧あるに驚ける教師等と俱に殿に居るを見出せり、彼の母の叱責に答ふるに「我の我父の事を務めざるべからず、爾之を諒せられよ」と言を以てせしに、兩親之を了解するを得ざりき

(四)學生宜しく是等の節を熟讀して其緊要なる宗教上の教訓の在る所を考出せよ

其九 (二〇四十五、五十一、五十二)

- (一)之を讀で其主意を臆へよ之れイエスの生長に非ずや
- (二) (一) "grew and waxed strong" "生長して強健(四十節)とハ肉体上の事也 (二) "filled" "満ち"或ハ "becoming filled" "満ちつゝ"と云ふの優れるに若かずとの説あり孰れにせよ之れ何を暗示せる乎 (三) "subject" "順ふ(五十一)イエスの生涯職業に就て太六〇二三約七〇十五を参考せよ (三) "kept" "藏めぬ"とハ此物語の起源及び性質を心に藏むる事也 (五) "increased" etc. "増して云々(五十二)とは肉体及び靈魂の發育を云ふ (六) "for" etc. "神の恵と人の慈云々"一般に所謂愛せらるるといふとよりも深き意味ある乎
- (三)前已に與へたる例に従て是等の節の意義を充分而かも簡略

に言顯はせ

(四)キリストが一僻村に閑居して其幼年を過せしとを視よ而して暫く野に居りしヨハ子の事と比較せよ

(二) 材料の類別

第一 本文に含有せる事柄及び其總括

(一)本文に含有せる事柄 左に掲ぐる材料類別表を熟讀して善く之に通曉するを要す

ヨハ子及びイエスの誕生と其幼時

(5)ヨハ子の誕生及び之に伴ふ出來事

(6)ザカリアの詩

(7)ヨハ子の幼年時代

(に) イエスの誕生

(は) 牧羊者への告示及び其結果

(へ) 割禮の事イエスと名くる事及びイエスを獻ぐる事

(ど) シメオンとアンナの証言

(ち) 逾越の節筵に殿に行く事

(り) イエスの生長

(二) 總括、此全節に含まれたる種々の事柄を綜合して左の如く

云の如何

ヨハナハ歡喜と驚愕と一般の利害とを惹起す所の事情の中に生れて割禮を受け而して斯く名けられたりザカリアハキリストに依て救拯の道を立て而して平和の光を來す神を讚

美し謳ふて其子の誕生を祝せり蓋しキリストの爲に其道を準備する者の即ち其子ヨハナなれば也夫婦ヨセフマリアベテレヘムに滞在中イエス生れり牧羊者等イエスの降誕を天使に聞き往て之を槽に見たり彼生れて割禮を受けイエスと名けられて殿に獻げられしにシメオン之をキリストとして祝し且多くの者之に反對せんを預言せり而してアンナ亦之に關る消息を傳播せり十二歳にしてイエス逾越節に伴ハレ販路兩親の見失ふ所とありしが殿に入りて教師等と俱に在りき而して我ハ我父の事を務む之れ我本分也と宣言せり彼ナザレに販り肉体精神靈魂共に健全に發育し神と人とに愛せられぬ

第二 材料に注目する事

左に云ふ所は事實、見解の本文の材料と緊要なる關係あるを以て熟讀するを要す

(十五) 小兒のイスラエルに於ての慈悲深く撫育せられ注意深く薫陶せられたり

(十六) 一〇五十九―八十ヨハネの神と其子キリストに關する高尚なる精神的思想に富める所の家族及び社會の中に生れた

(十七) 一〇六十七マラキ以來沈黙ありし預言茲に復興せり

(十八) ザカリヤの詩の舊約時代の辞句思想を含めり

(十九) 一〇七十一、七十四ザカリヤが有せし所のキリストに關す

る概念中重なるもの、浮世の敵の手より救はるゝとありき
(廿) 一〇八十ヨハネは暫く退隱して心を鍛へ以て其天職を全ふるの準備をなせり

(廿一) 二章一、二節の事の歴史上不分明あるを以て隨てイエスの誕生の日を正確に定むるを困難ならしむ

(廿二) イエス降誕の場所に卑賤ある者(牧羊者)及び高尚ある者(天使)の現出せし事は此福音書の正確眞實あるを証せずんばあらず(ストーカー原著足立通衛譯の基督傳三ページより八ページまでを見よ)

(廿三) イエスの幼年時代に關して福音記者の沈黙なるは則ち其吾人に語る所の眞實あるを判定せしむるに足る

(廿四)(二〇四十九)イエスは幼時早く已に神と特別の關係あるとを自覺せり

(廿五)彼の肉体も精神も共に全く一般人間と同一の生長を爲したりと雖も神の愛を享有せる事の固より比ひなし

(廿六)茲に天使の見舞及び有り得べき不可思議なる一の出來事に就て言へり

(廿七)マリアが是等の事(二〇十九、五十二)を深く心に銘せし事及び他の人が其事に就て語りしと(一〇六十五、六十六、二〇十七、卅八)の恐くハルカが得たる智識の源あらん

(廿八)(二〇廿五、卅八)當時キリストの來降を望める敬虔ある民の一社會ありき

(廿九)(二〇卅四)イエスが後に遭遇せし反對並に其理由之シメオンの語中に暗示せらる

第三 學課の題目

進んで課程を講せんが爲に先づ題目の排置を視よ

(一)材料の性質(六―八、十三、十四、十八、廿二、廿三、廿六、廿七を見よ)

(二)一〇五より二〇五十二までの文學上の性質を評價せよ

(三)一〇一―四と異なる事(五)其中に在る舊約時代の文体及び希伯來語調を視よ (三)其歴史上の性質を考究せよ (イ)天使

の事 (ロ)不可思議ある事 (ハ)其周到ある注意と腹藏的ある事(事)妊娠出生の秘事に關するを以て (ニ)事實に關して沈黙なる事 (ホ)不經の福音 (ヘ)個人の記憶に依る事(ルカ)のキリ

ストの降誕に就てマリア等此記臆に依れりと歴史上の困難
 (三〇一—三三)之が材料は源を調べよ (イ)ルカが此に挿入
 したる希伯來の教書 (ろ)ルカがマリア等より聞き得たる口
 傳 (四)之が材料を謂て (イ)正確なる語句と實際の出來事と
 を抱有せるものなりと云ふ者あり (ろ)流行的稗史に非れば
 敬虔心に出でたる妄誕の記録(神の事を人に知らせんとする
 熱心より虚妄の事を記載す之れ其志は嘉すべきも其事の
 實あらざるを如何にせん)ありと云ふ者あり (ハ)文体の記者
 固有の風を帶ふと雖も事柄の歴史上の事實に則れりと云ふ
 者あり(學生宜しく是等の異見に就て判断する所あれ
 (二)歴史上の位置(足立譯基督傳十八ページより廿七ページまで

を見よ(九、十七、十九、廿一、廿八を見よ) (二)一〇五、七十四、二〇一
 一四を基礎として其れよりイエス誕生の時猶太人民の政治
 上の状態に關して明晰なる考案を作れ (三)且猶太人民の宗
 教上の状態を視察せよ (イ)其蒙昧なる有様 (ろ)此時の宗教
 的復興 (三)歴史上よりサガリアの詩を特に研究せよ
 (三)イエスの幼時(九、廿一—廿五、廿七、廿八を見よ) (二)路二〇一—
 五十二太二〇一—廿三よりイエスの幼時の出來事を順序よ
 く整列せよ (二)何故に福音書がイエスの幼時に沈黙なるか
 を考へて之を説明せよ (三)イエスの智能的宗教的、教育及び
 職業に關する他は事實をも言顯はせ (四)イ)彼は發達に關し
 (ろ)家庭に於ける彼が勢力に關して何が言はれ得るか (五)凡

ては事實、就中二〇四十二—五十一の出来事より (イ) 神に對するイエスの關係 (ロ) イエスの之が關係を自覺せる事を考究せよ

第四 宗教上の教訓

左に言ふ所の重なる宗教上の教訓也
救主の降誕に就て (一) 貧しき境界に生れし事 (二) 最初卑賤なる職業を執れる人に告示されし事 (三) 但し天使に因て告示せられし事 (四) 幼時の間靜かに村落に生活せし事 (五) 人間生長の法に従て生長せし事 (六) 然れども神と無上の關係を有せることを自覺せし事

課程第五、第六 ヨハネの職任

(三〇一—廿二)

(注意) 各課程を學ぶに當り (一) 前課程の材料を再閲し (二) 現課程として定められたる全節を通讀して其事柄の重なる部分を了知するを要す

(一) 材料の考試

左の順序の常に此學課に欠くべからざるものと知るべし
(一) 一節或ハ一句を讀で其大體の主意を領する事 (二) 大切なる字句或ハ難解の字句を考究する事 (三) 一節或ハ一句の主意を解釋し大切或ハ難解の字句を考定して而して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯す事 (四) 宗教上の教訓を考へ學ぶ事

其一 (三〇一—六)

(一)是等れ節を讀で其主意を考へよ、ヨハチの職任に發端是也
 (二)左の語句に注意せよ (一)“fifteenth year”第十五[年]之れイエスの生涯の年代記に於ける大切なる事也 (二)一章は歴史上及び地理上の材料を穿鑿せよ (三)アンナス[此に歴史上の困難ある乎] (四)“word of God came”神の言下れり「一説に古の預言者として召さるゝ事」と云へり母前十五〇十耶一〇二何一〇一等を見よ (五)“preaching”宣傳太三〇二の語に就て、(六)“baptism”「バプテスマ」洗の式か將た他の方式か(七)“of repentance”「悔改の」之れ悔改を生ずるものなるか將た悔改の言顯即ち其表徴なるかを判定せよ (八)“unto remission” etc.

「罪の赦の爲に云々」悔改のバプテスマ其者が赦を得しか將たキリストが與へ給ふ赦を表示せしかを考定せよ、(九)四一六に於て原文希臘語の辞と意味に注意して相違の廉を比較說明せよ (十)“all flesh”凡る肉体を具ふる者「ルカ」獨り之をいふ (十一)太三〇一—六を讀で之を比較せよ而して(イ)彼の衣服食物及び(ロ)其評判に注目せよ

(三)是等の節に含有せる事柄を左の如く云ひよ充分ならずや
 テベリオ在位の十五年當時の政治的宗教的狀態の中にヨハチなる者預言に従て出で來り罪の赦を得させんが爲に悔改のバプテスマを宣傳へり

(四)宗教に表徴の必要なるを視よ例へば (一)個人の宗教的生活

を進捗せん爲め (二) 宗教的教訓の純潔を保持せん爲め (三) 宗教的眞理を明にして之を表証する爲め

其二 (三〇七—十四)

(一) 是等の節を讀で適當と思考する主意を擧げよ

(二) (一) "multitude" 衆人可一〇五を参考して救拯の道の關する所如何に廣さかを視よ (二) "offspring of vipers" 蝮蛇の苗裔其譬喩を説明し且此語が何人に向て特別に言はれしかを考へよ (三) "we have Abraham" 我儕のアブラハムを先祖として戴く當時の宗教的信念の如何を知るに足る (四) "axe is laid" 斧は樹の根に當られたり之が譬喩を説明し且其審判の預告たることを臆へよ (五) "two coats" 裏衣二枚

之れ譬喩乎蓋し貪慾の罪に就て也 (六) "publicans" 稅吏彼等れ性質職業について聖書字典を見よ (七) "extort" 取る (十三節) (い) 彼等の苛酷れ手段を示す (ろ) 何れ罪乎 (八) 十四節に於ける兵卒の生涯に關する三誘惑に注意せよ (リンドセイ) の六十

七ペーシの註を参照せよ

(三) 左の如く總括せば如何 ヨハ子曰く一般に云ふとき(蝮蛇の子孫)爾等如何にして此處に来るか唯悔改めて正しき道を歩めばこゝろ凡ての不義者の頭上に落下する亡滅の危きより救はるゝなれアブラハムの裔なるも夫れ將た何にかせん神は能く此石をもアブラハムの子と爲らしむべしと(個々に就て云ふとき) (五) 民を

して其私利を計るの念を絶たしむる事 (ろ) 税吏の貪慾、(は) 及び兵卒の肆行を絶たしむる事は也

(四) 此に言ふ所の宗教上の教訓の何人とも雖も一切の罪を絶つに非るよりの或懲罰を免る能はざる事にあらずや

其三 (三〇十五—十八)

(一) 是等の節の主意を「キリストに於けるヨハ子の証言」と云ひよ如何宜しく考究すべし

(二) 坐右に在る種々の註釋書の補助に依て不明瞭なる或の大切なる語句を周到に考究して約一〇十九—廿八太三〇—十一、十

二、可一〇七八に録されたる同様の記事と比較せよ
(三) 之を省約して左の如く言ひよ如何

ヨハ子の己がキリストなりや否を付度する民に向て曰く人物、天職共に我より優等なるキリストの靈魂を潔め善を惡より分たん爲に今將に來らんとす

(四) 之が緊要なる宗教的教訓の主の先驅者たるヨハ子の謙遜なる忠信に在りて存せざらんや

其四 (三〇十九、廿)

(一) 是等の節を讀で其主意を領せよ、之れヨハ子後年の生涯にあらずや

(二) 此出來事に關する詳細の事實を知らんが爲に可六〇十七—廿九と之を對照し見よ例へのヨハ子の如何あしてへロデを識るふ至りしや其關係交情等、(二) reprov'd 諫められ其

預言的精神に注目して母後十二章を参考せよ且批難の理由性質に就て利十八〇十六同廿〇廿一太十四〇四を参考せよ

(三) "prison" 「獄」何處乎

(三) 學生宜しく前例を倣ひて是等の節を簡略に充分に言顯ひせ
(四) 眞理に忠信にして大膽なるとの危難に就て宗教的教訓の存する所を見よ

其五 (三〇廿一、廿二)

(一) 之を聖靈の降下と云ひ得る乎

(二)(一) "were baptized" 「浸められし」之れバプテスマを受けたりしに非ずしてイエスがヨハネよりバプテスマを受けつゝありし時を意味す(二) "praying" 「禮拜の祈を爲すとき」之れイエス

の性質、精神を明にす (三) 廿二節の出來事ハヨハネとイエスにのみ與へられたる幻影なりしか將た凡ての者に感ぜらるべき外部的出來事なりしか (四) 鴿之れ第一潔白と迅速高飛の勢力第二柔和を意味するか (五) "my beloved Son" 「我愛子」彼がキリストなるとの天父の証言 (六) "am well pleased" 「我が喜ぶ所」の一説に "was well pleased" 「喜びし所」は過去に作らる其意如何 (七) 先づ之を學んで而して後一層深くバプテスマの事を研究せんが爲に太三〇十三一十七に録されたる同一の記事に就て視よ
(三) 之を總括して斯く言ひ如何
イエスのバプテスマを受けつゝ祈れる時啓ける天より鴿の

如き聖靈を頭上に戴き而して天父の喜べる聲を聞く
 (四)之より多くの宗教的教訓を案出するを得學生宜しく考究して其最も緊要明白なるものを撰ぶべし

(二) 材料の類別

第一 本文に含有せる事柄及び總括

(一)本文に含有せる事柄、左に掲ぐる材料類別表を熟讀して善く之に通曉するを要す

ヨハ子の職任

(イ)ヨハ子職任の發端

(ロ)ヨハ子の説教及び其結果

(ハ)キリストに於けるヨハ子証言

(ホ)ヨハ子後年の生涯

(ニ)は聖靈の降下

(二)總括 本文に含有せる事を總括して左に如く云はん
 テベリオオ在位は十五年ヨハ子なる者出で、萬民に罪の赦を得させんが爲に悔改のバプテスマを宣傳へ且審判は大事業を爲さんとするキリストは來降を告げて以て彼等其生活を一新せんとせりへロテ、ヨハ子に戒められて之を獄に投じぬ、イエス、ヨハ子よりバプテスマを受けて祈れるとき聖靈之に降り天父キリストは爲お証言をなせり

第二 材料の觀察

左に云ふ所は事實結論の本文と緊要なる關係あるを以て熟讀

考究するを要す

(卅)此に與へられたる年代上の材料のイエスのバプテスマを受けたる日を定むるに大なる關係を有す

(引証)是を以て吾人の斯く結論せんと欲す即イエスのバプテスマを七百七十九年(紀元後廿六年)の十二月に受けしに非れば七百八十年(紀元後廿七年)の正月に受けし也]アンドロユー氏著中 Essay on the Date of the Lord's Baptism, "Life of our Lord" pp. 22-25

吾人のイエスがヨルダンに行きし紀元後廿八年の初に在りと思考す]ウエース氏著 Life of Christ, I., p. 318

(卅一)(三〇六)ルカ大に福音的生活思想に就て萬民に告ぐ(二〇四、卅二に比較し見よ)

(卅二)(三〇七-十四)宗教界に於ての儀式的行爲と宗教上の自慢のあるあり社會に於ての人皆私利貪慾放肆の裡に彷徨す

(引証)ストーカル氏曰く之れ社會||罪の奴隸となりたる國民||の憐むべき状態ありき上流の者の私利諂諛懷疑の奴となり教育家及び重なる宗教家の外部の儀式にのみ心を傾け自ら神の寵愛を蒙る者として誇り而して其靈魂の自欺と不徳を以て病めるを知らず多數の人民の妄想に誤られて廉恥を顧みず氣隨氣儘に罪惡の中に彷徨して社會の下層に沈淪する不憐れなる」と

(卅三)斯る多數の人民がヨハ子の許に來る事其國民中に道德上の一大警醒の起りたるを意味す

(卅四)三〇二三七一九ヨハ子ハ其召されたる事其職任及び其説教に於て預言者也

(卅五)其説教の嚴平として實際に適中す以てキリストを言顯せり(其説教の特質に就てフアーラル氏著 Luke, pp. 86, 87 を見よ)

(卅六)此材料の或者十一十四のルカが馬太或の馬可より得たる智識の外に得たる所あるを示す

(卅七)ルカのイエスのバプテスマを軽く言て之に聖靈の降れる事に重きを置く

(卅九)三〇廿二聖靈のイエスに降りし其祈禱中ありき
(引証)之れイエスが其與へらるべき天職(救世主たるの)を認めて

熱心に之を求めたりしとを教示するものに非ずや「ブリツス氏著 Commentary on Luke, p. 69.

(四十)三〇廿二父神ハ此時の前已に其子を喜び給へり

(引証)父神が其子を喜び給へりとの縦令過去に属するとなりと云ふを得るも其何時頃ありやを知らざ蓋し惟みるにキリストを中保者成功者として人類贖罪の大業を立て給ひし時に於て神ハキリストを喜びしならん「ブリツス氏著 Commentary on Luke p. 70.

(四十二)鶴てふ語ハ如何に考察せらるども聖靈のイエスに宿らん爲に之に臨みしとの明か也

(引証)イエス天を仰で祈りつゝありし時幽邃ある蒼天ハ啓けり

而して此罪なき偉人の遙に永久赫々たる邦土を直視せり其
 之を仰ぎ視し時煌々たる榮の光、鴿の如く降りて頭上を覆ひ
 輝くを見たり、要するに鴿其者の形が實際降りてイエスの頭
 上に輝きしどの實あらざるが如し、恐く之れ光を發つ或者
 ありしあらむヨハ子之を鴿に比せし、榮光の雲、晴天を飛
 んで恰も鳥の如く一昂一低飄々として下りて彼が頭上に輝
 きしを以て也] Pulp. Com. I. p. 69 之に反對の説、Schaff in Van.
 ○「靜かに飛び來て止まれる鴿の神の啓示の急湍激流の如く
 なるを前表したるに非ず、蓋し之れ神の永生の齊々肅々たる
 示現にして神性の宏高安靜を前表したるもの也」(ニアンダー
 氏著キリスト傳六十七ページ)

(四十二) 彼の幼時の發端より聖靈に感じたりしが故に此出來事
 の彼の爲に特別の意味なくんばならず
 (引証) 此幻影及び天聲の心裡に聖靈を感得せしめたるものにし
 て之れ獨り施沈者ヨハ子の爲にせられたる也……イエス
 の斯る啓示を要せざりき(ニアンダー氏著キリスト傳六十八
 ページ) 是れ意味なきに非ず亦獨り施沈者ヨハ子に對する記
 表たるに過ぎざるに非ざりき蓋しヨハ子をして其職任を盡
 すに適せしめんが爲に新に與へられたる表徴なりき(ストー
 カル氏著キリスト傳四十九ページ) 此時より後イエスの恒に
 聖靈の行爲の下にあるべかりし也而して聖靈の彼をして其
 救世主たる天職を全ふするに必要なる事を言ひ且爲さしめ

し也(ウエス氏著キリスト傳一卷三百廿七ページ)

第三 學課の題目

進んで課程を講せんが爲に先づ題目の排置を視よ、

(一)ヨハ子の職任(三十二―三十五を見よ) (二)其職任の二事即

(イ)道を宣傳する事 (ロ)パプテスマを施す事を知て其關係を

考究せよ (二)其職分の或特有性を枚擧せよ例へば (イ)道徳

革新の任 (ロ)救世主を宣傳するの任是也而して二者の關係

を考へよ(太三〇七―十二を参考せよ) (三)其職の結果を枚擧

せよ (イ)大に評判善き改革に就て(可一〇五太十一〇七) (ロ)

救世主の來降を正當に望む信念を速むる事に於て(太十一〇

十二約一〇廿九―四十二を参考せよ)

(二)ヨハ子の品性(卅四卅五を見よ) (二)彼が人と爲りを考へよ

(イ)其強硬なるとの證據に就て(路一〇八十同三〇十六、十九、太

三〇七、十四同十四〇四約三〇廿七―卅) (ロ)其弱點に於て(可

二〇十八太十一〇三) (二)其預言者たる性質を視よ (イ)其外

部の生活に於て見らるゝ點に於て(可一〇四、六路一〇十五、八

十、且つ王下一〇八亞十三〇四を参考せよ) (ロ)路一〇七十六

の預言説に於て (ハ)神の命令を受けぬてふ句に於て(路三〇

三) (ニ)彼が道徳及び救世主に就て説教せしとに於て(賽耶等

を参考せよ) (ハ)表徴的パプテスマに於て(亞十三〇一結卅六

〇廿五を参考せよ) (ヘ)ヘロデとの關係に於て (三)彼の品性

に影響を及ぼせし家庭の勢力を考察せよ(路一〇十三―十七、

四十二―四十四、六十一―六十七、八十) (四)彼に對するイエスの信念を臆へよ(路七〇廿四―廿八)

(三)ヨハ子とイエス(卅四、卅五を見よ) (一)其關係(路一〇卅六)及び以前の交際(路一〇卅九―五十六、太三〇十四、約一〇廿九、卅一を參考せよ) (二)イエスに對するヨハ子の信念を考察せよ

(イ)其愛情に於て(約一〇卅) (ろ)其品性に於て(太三〇十四) (は)其威嚴と重任に於て(約一〇卅四、廿九、同三〇卅一、卅四) (三)ヨハ子の勤務にしてイエスの天職に補益を與へしもの何ぞや (イ)一個人として(太三〇十四) (ろ)悔改の道を宣ぶる事に於て (は)キリストを宣傳するに於て (に)キリストの徒弟は爲に道を準備する事に於て(約一〇廿五―卅七)

(四)イエスのバプテスマ(卅七―四十二を見よ) (一)イエスがヨハ子に就て求められたるバプテスマの目的意味を熟考して

(イ)ヨハ子の之を辞退せし事(太三〇十四) (ろ)イエスが受くる此バプテスマの他の者が受くるバプテスマと同一の意義にあらざりし所の或事情に注意せよ (二)何故にイエスのバプテスマを受けんと欲して來りしか (イ)衆民に實例を示さん爲めか (ろ)罪ある民の一人なるイスラエル人としてか (は)私の生涯を棄て、公の道行をなす首途の表徴乎、之に就て説あり曰く、或者のイエスを罪惡の悔改者の代表者と見做し、或者の其バプテスマを見て之れ彼が救世主たる生涯の發端の儀式なりと云ひ、或者の彼がヨハ子よりバプテスマを受け

たる事を謂て之れ純全なる理想的イスラエル人の私の生涯の最後の行爲なりと云ふ要するに過去、現在、未來に關して凡ての義を完ふするてふ語の充分なる意義より看るとさへ上述の區々の解釋の唯其一部分の意義を言顯のせるのみ蓋し之れイスラエルの預言者に順ふの義務を承認する純全なる一イスラエル人の義たりし也之れ万民の父と新關係を起す所の愛情の代表者なる人の子たりし也而して之れ一身を挺して全然神意を副はんとを期したる神子に義たりし也(ヴァリング氏著イエス、キリスト傳六十四ページ)(三)太三〇十五を熟讀して其バプテスマのイエスに於て一層正義の有様に達せんとする方法たりしや否を考定せよ(四)バプテスマに

次ぎし所の「聖靈の降下を學べイエス若しバプテスマを受けざりしならば聖靈之に降らざりしか(可一〇十路三〇廿一を参考せよ)(五)ヨハ子に關し(約一〇卅二、卅三)(ろ)イエスに關して此全出來事の結果如何之れイエスの性質、品性に或變化を印せしか之れイエスをして其職任に就て一層覺悟せしむる所ありしか抑々之に因て彼が公職に就く爲に新たなる能力を賦與せられしか(賽十一〇二路四〇一可十〇十二約一〇卅二を参考せよ)

第四 宗教的教訓

本文の重なる教訓の「ヨハ子の準備的職任」に在て存せざらんや(一)其必要(太十七〇十二、十三を参考せよ)(二)其必要の目的を達

する手段即、準備其者に在りて存せざるに非ず (三)然れども之れ實に準備として特に必要なる也 (四)目的を離れて何の用をか爲さん (五)凡ろ人事に於ける準備の性質 (六)聖靈に依て爲さるべき事(約三〇廿八―卅)ヨハ子の準備的職任に就て云へるあり曰く「ヨハ子のキリストに先ちし者なるが故に悔改の宣教者たる彼(ヨハ子)のキリストの來り臨むに先ちて聽衆の心に徹底せしむる所あくんばあらず抑々不安心を通りて平和に至り悔改を過ぎて恩恵を得るに至るの實に主の御國に達するの道程にして之れ啻に昔日の猶太人に於て然りしのみならず洵に今日の基督信徒に於て亦然る也(Van. O., p. 59, note 7.) Ecce Homo, p. 14. に在る興味ある文を見よ)

課程第七、第八 發端

(三〇廿三―四〇四十四)

(注意) 各課程を學ぶに當り本文の全節を通讀して其事柄の重なる部分を了知するを要す

(一) 材料の考試

左の順序の常に此學課に欠くべからざるものと知るべし (一)一節或の一句を讀で其大体の主意を領する事 (二)大切なる字句或の難解の字句を考究する事 (三)一節或の一句の主意を解し大切或の難解の字句を考定して而して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯す事 (四)宗教的教訓を學ぶ事

其一 (三〇廿三—卅八)

(一)之を讀で其主意を臆へよ、之れイエスに系圖にあらすや
 (二)「凡る卅年」(廿三) (イ)其不明瞭なるを臆へよ (ろ)其時代に就て考へよ(民三〇四十七を参考せよ) (ニ)神に子ある(アダム(卅八)(イ)何故にルカのアダムまで溯りしか (ろ)何故にアダムを神に子といへしや
 (三)是等此節に含有せる事を左に如く言ひ、充分あらすや
 〔ダビデに子おして而して神に子なるイエスの人間として年凡る三十に時其天職を勤め始めり
 (四)イエスの人との關係に於て常にダビデの子孫を助くるのみならず凡ては人間の子孫を助くる者也之れ本文に宗教的眞

理あらずや

其二 (四〇一—十三)

(一)之を讀で其主意を臆へよ、イエスに誘惑是也
 (二)考究すべき語句の左に如し (一)“was led by the spirit”「靈に導かれて」崇高ある精神的奮興に有様 (二)“tempted”「試みらる」太四〇二、三、可一〇十三を参考せよ (三)“the devil”「讒鬼」(五)可一〇十三に云へる他れ名を見よ (ろ)此語に意義如何 (四)“Lad him up”「つれゆき」(五節)太四〇八を参考して (五)「一層精しき事柄を視、且(ろ)其順序に相違に就て説明せよ(五)“Relivered unto me”「我に委任されたる」(六節)之れ眞乎約十二〇卅一を参考せよ (六)“shalt not tempt”「試むべからず」(十二節)之れ

イエスの意 (一) サタンの我を試むべからずと云ふに在るか
 將た (二) 我は神を試むべからずと云ふに在るか (七) every
 temptation (一) 此れ誘惑みち (十三節) 如何ある意味に於て乎 (八)
 For a season (一) 暫く (約十四〇卅路廿二〇四十、四十三、五十三を
 参考せよ

(三) 之を左れ如く省約せば如何

イエス靈に導かれて野お適き四十日間食せずお在りしお
 (一) 石をパンと爲して餓を凌げ (二) 我を拜まば浮世れ一切れ
 權威を與へん (三) 聖殿の頂より身を投げて見よ等の誘惑を
 悪魔に試みられたりイエス之が誘惑を斥くるに聖經の語を
 以てせしに悪魔暫く離れ去れり

(四) 正義を踏み人情の大本に基いて精神的生活を營まんと欲す
 る者を刺激する所の力ある且巧みある誘惑に就て猛省せよ

其三 (四〇十四、十五)

(一) 之を讀で其主意を考定せよ

(二) (一) Returned (一) 飯へりし (十四節) (一) ガリラヤの其故郷ありし

ゆゑ也 (二) 惟ふに猶太に於て多少公然傳道に従事せし後お

るべし約一〇廿九—三〇廿二同四〇四—四十三を参考せよ

(二) in the power of the Spirit (一) 靈の能を以て誘惑の結果上斯く

云へし也 (三) name (一) 聲名 (約四〇四十五を参考せよ) (四) in

the synagogues (一) 會堂にて聖書字典を見よ

(三) イエス聖靈の能を以てガリラヤに傳道の端を開きしに名聞

え譽れ高かりき

(四) 公に道を傳ふるの要の名聲にあらざして聖靈の能なることを識認せよ

其四 (四〇十六―卅)

(一) 之を讀で其主意を考定せよ假りに「イエスナザレに説教す」とせん

(二) 左の語句を學べ (一) "his custom was" 「己が慣習に順ひて」十六節彼が初めの生涯に關する暗示を見るべし (二) "stood up to read" 「讀んとて立ければ」 (三) 當時聖書の朗讀を以て第一の教課とせり (四) 惟ふにイエスの慣習も亦然りしあらん (三) "found the place" 「所を見出せり」十節特に之を撰びしや或

の當日の定まりたる課目として之を見出せしや(四) "written" 「録されたる」(一) 希伯來語にて録されたる也 (二) 賽六十一〇一、二を參考して其相違を比較説明せよ (三) 舊約書に録されたる此本文の偶意如何 (四) "began to say" 「曰ひ始めける」(五) 廿一節の「proceeded to say」言ひ出でりに作る之れ本文乎將た本文の總括乎(六) "to-day etc" 「今日云々」自らキリストたるとを示す (七) "words of brice" 「恩惠の言」(八) 廿二節事柄に關するか作法に關するか將た兩方乎 (九) 「ヨセフの子」(一〇) 將に反對の衝に當らんとす (一一) 「イエスに對する彼等の觀念」(一二) "and he said" 「曰ひける」言論の第二段(十三) "we have heard done" 「我儕が開きし所の……行し事」此出來事の年代上の位置を知る

に足らん(十二)廿五―廿七(五)歴史上の暗示(ろ)其關涉する所―神の奇跡の狭溢の部分に限られざる事(十三)“throw him down”「投下さんどす」神を畏れざるが爲の懲罰(十四)“passing through”「徑行り」(卅節)奇跡的の平

(三)是等の節を考究して其含有せる事柄を簡明に言顯せ

(四)之が宗教的教訓のイエス其道を公言するに於て第一神の恩恵を宣へ第二私を棄てて公に順ひ以て全然人情に助けある同感を表する所の事實に在りて存せざらんや

其五 四〇卅一―卅七

(一)之が主意は何ぞや會堂に於て人の悪魔に憑れたる事乎

(二) (一) Capernaum カペナウ(卅一節)何れの地方乎其位置如何

(一) “spirit of an unclean devil” 「汚れたる悪魔の靈」(卅三節) (五) 如何にして彼れ此處に來りしや (ろ) “devil” 或は “demon” と云ふ

四〇一を見よ (三) “we, us, I” 「我儕、我」(卅四節) (五) 單數に

云ひ又複數に云へしの本心と悪魔の二性の戦ふとを意味するか或(ろ)此悪魔、他の凡ての魔物を含有して云ひしに因る

か(四) “Holy One” 「聖なる者」(五) 路一〇卅五、詩十六〇十約六〇六十九を参考せよ (ろ) 救主たることを証するの言 (は) 其聖人を感せし事 (五) “thrown” 「仆し」(卅五節) 身体を仆せし也肉体に

に於ける悪魔の力を見よ

(三) 左の如く云ひ如何
イエスカペナウの會堂に於て權威ある言を以て説教し而

して彼を祝してキリストと云ひし悪魔を逐出せしに人皆驚愕してイエスの名揚れり

(四)之に含有せる宗教的教訓如何

其八 (四〇卅八—四十一)

(一)之が主意を「ペナウン」に於ける治病^{ちびやう}れ行爲^{わざ}と云て可ならんか

(二)前已に屢々^{しばしば}教示^{けうし}せし方法^{はうほう}に依て本文中の凡ての大切難解^{たいせつなんかい}れ語句^{ごくう}を考究^{かうきう}せよ

(三)本文を省約^{しょうやく}して斯く云いよ如何

彼^{かれ}のシメオンの家^{いへ}に於て熱病^{ねつびやう}を治し夕刻^{ゆふぐ}又他の病^{やまひ}を療^{りやう}し而して悪魔^{あくま}を逐出^{おひいだ}せり悪魔^{あくま}の彼^{かれ}の救主^{すくひぬし}なることを証言^{しょうげん}せしにイ

エス之^{これ}を斥^{しりぞ}け給^{たま}へり

(四)本文^{ほんぶん}に於て學ぶべき緊要^{きんやう}なる事^{こと}のイエスが自己^{おのれ}に關する証言^{しょうげん}の或種類^{あるしるい}を斥^{しりぞ}けしとを考ふるに在りて存す

其七 (四〇四十二—四十四)

(一)學生^{がくせい}宜しく之^{これ}が主意^{しよひ}を考定^{かうてい}すべし

(二) (一) "desert place" "人なき所" (二) 詳言^{しょうげん}せし殖民^{しよくみん}なき所 (三) 彼^{かれ}の其處^{そのところ}に於て何を爲せし乎可一〇卅五を見よ (四) "good things of the Kingdom of God" "神^{かみ}の國^{くに}の福音^{ふくひん}" (五) 可一〇十五を參

考せよ (六) 出十九〇六母前八〇七同十二〇十二母後七〇十

二一十六賽六〇五但二〇四十四四十五同七〇十四十八を參考せよ (三) "was preaching" "道^{みち}を宣傳^{のふつた}へり" (五) "一説^{いつせつ}に" "went

to preaching” 傳道は爲お行きぬとあり (ろ) イエスは方針を
知るお足る

(三) 是等れ節を總括して斯く云ふ如何

イエス獨りありけるお衆人の尋ぬる所となりて留まらんと
を求められし己が傳道は天職を考へ徧くガリラヤに道を
傳へんが爲お行去りぬ

(四) 之が宗教的教訓のイエスが出來得る丈け弘く福音を傳播す
るは義務あるを認めおりしとに在りて存せざらんや

(二) 材料の類別

第一 本文に含有せる事柄及び總括

(一) 本文に含有せる事柄 左に掲ぐる材料類別表を熟讀して善

く之に通ずるを要す

發端

(い) イエスは系圖

(ろ) イエスは誘惑

(は) ガリラヤに於ける初めの傳道

(に) ナザレに於けるイエスは説教

(は) 會堂に於て人の惡魔に憑れたる事

(へ) カペナウンに於ける治病は行爲

(と) ガリラヤに於ける一般は傳道

(二) 總括 本文を綜合して左に言ふ所を見よ

ダビデは後裔にして人の子なるイエスの年凡る三十おして

初めて其職を執掌せり (一)彼の悪魔の誘惑に遇ひて之に勝ち而して (二)聖霊の能を以てガリラヤに往きて説教しぬ
 (三)又ナザレに於て恩恵の語と譴責の語を話し (四)其言の權威ある事其權能は悪魔を制して病を療やせし事此謂を以て名聲大に揚がれり斯くてガリラヤ全土を通じて説教しぬ

第二 材料を視察する事

左に言ふ所は事實結論の本文と緊要なる關係あるを以て熟讀斷味するを要す

(四十三)ルカは編みし系圖のアダムまで溯れり

(引證)ルカは所謂イエスの裔にアブラハムは子孫なる救主たるを認めあらずアダムの子孫なる救主たりし也[Pulp. Com. p. 71.]

(四十四)ルカは之が系圖を其福音書の初に置かずして之をイエスのバプテスマと誘惑との間に置けり

(引證)セントルカの判断せし如くイエスが此世の舞臺に現出したる時ころ之れ其浮世的系圖を製するの時なれ[Pulp. Com. p. 71.]

(四十五)唯路加と馬太のみ之が系圖を製せり

(四十六)イエスの其人間たりし範圍内に於ての疑もなくダビデ系統の一猶太人なりき

(四十七)(四〇)荒地に旅せし間イエスの聖霊の勢力の下に非常なる有様の中に在りき

(四十八)(四〇)イエスが飢餓の苦痛を感せしに斷食する事四十

日の後なりし也

(四十九) イエスの自ら舊約の詞と想とに富めるとを示せり

(引証) モーセの格言と教訓とに希伯來國の凡ての小兒の教育に用ゐられたり」Pulp. Com. p. 88.

(五十) イエスの弟子輩の經驗の爲に自ら其誘惑談をなせしあるべし

(五十一) 聖靈に満てる彼に對して力ある誘惑も彼をして唯神命を行ひしむる方法たるに過ぎざるが如し蓋し神命に應ふるの彼の任にして之れ其深く心お肝銘せし所なりき

(引証) 須氏基督傳三十四ページの終より卅六ページまでを見よ「キリストの自己の歩むべき道を考へしなれば亦其歩むべ

からざる道を知りしなるべし」Weiss, I., p. 349.

(五十二) 四〇十六—廿二會堂禮拜に關する多くの慣例此に暗示せらる

(五十三) 四〇廿四—廿七イエスの傳道の局小ならずして廣大なるといルカの福音書に特筆せらる

(五十四) 四〇十八—廿八善人の須らくイエスの動作及び其傳へし消息の仁惠を記憶せざるべからず

(引証) 要の言説に在りて動作に在らず動作の恩惠の其源教理の消息の恩惠に在りて存す」Bruce, The Kingdom of God, p. 50.

(五十五) 四〇廿八) イエスの傳道の初に於て常に反對に遇へり
(五十六) 四〇卅三—卅五) 惡魔に憑れたる人の形體上精神上道義

上之が影響を蒙りたるが如し

(五十七)四〇卅二―卅六イエスの権能の其言語行為に於て人を感動せしめたるが如し

(引証)須氏基督傳五十九ページより六十ページまでを見よ、

(五十八)四〇四十三イエスの神の國の福音を宣傳する重任を荷ふとを自認せり

第三 學課の題目

進んで課程を講せんが爲に先づ題目の排置を視よ

(一)イエスの系圖(四十三―四十六を見よ) (二)ルカの福音書に於ける系圖と馬太の福音書一〇一―一七に於ける系圖との相違の重なる點を視よ例へば (三)順序に於て (四)名目に於て

(ハ)詳細に於て (ニ)此兩系圖表に於て見る所の兩意見を考へ

よ (イ)ルカのマリアに因てイエスの降誕を言ひ (ろ)馬太の

ヨセフに因て其降誕を言ふ (ハ)而かも二者共にヨセフを其

父と言へり (三)能ふべくバ兩者の意見に就て説明する所を

れ (四)之が系圖を作りたる兩記者の意匠に關して考究せよ

(五) (イ)ルカの其物語中此處に系圖表を挿入せし事 (ろ)馬太

のアブラハムに止め置きしにルカのアダムまで溯りし事に就て穿鑿せよ

(二)誘惑(四十七、四十八、五十、五十一を見よ) (一)此物語の信すべき

出處を考へよ (二)之が記録の歴史的出來事ある事 (イ)其

單純にして本來の性質を帶ぶる事 (ろ)イエスの生涯に於

て斯る経験の自然にして順理なると其事の當時に適切なる
 とに由て推定するを得 (三)其歴史的出来事なるや明か也而
 して之れ (一)此世に於て見らるべき外部的経験として起り
 なせしや將た (二)イエスの靈魂に於ける内部的練磨として
 起りなせしや (四)三種の誘惑を考察して (一)其果して文字
 通り實際に起りたるもの乎或ハ譬喩的なる乎を定め (二)其
 特別の意味を穿鑿し而してイエスの境遇事情に之を應用し
 て考究せよ (五)イエスの生涯の全体を打算せよ (一)彼の性
 質を啓示する事に於て例へば誘惑等に於て (二)彼が公然傳
 道の舞臺に現はれたる時其抱有せる目的方法を知らしむる
 事に於て (三)彼を待ち望む事の困難なるを暗示する事に於

て(路四〇十三) (二)彼の品性を確定する事に於て(來二〇十八
 を見よ)

(三)ナザレに於ける宣言(五十二—五十五を見よ) (一)活ける心を
 以て此宣言の事情を曉れ (二)宣言中種々の事を臆へよ (一)一
 十八、十九の本文 (二)恩恵の言(廿一、廿二節) (三)反對に關する
 感覺(廿二—廿四節) (四)猶太人よりの寧ろ他國人に道を傳ふ
 るを言ひし事 (五)其結果 (三)此に云へるイエスが其故郷
 あるガリラヤを見舞ひしとの恐く可六〇—一六、太十三〇
 五十五—五十八に云へると同じ見舞なるべし(路四〇十四、
 十五、廿三を見よ) (四)果して然らばルカが此見舞の記事を
 (一)説教の性質に於て(凡ての者に恩恵を與ふる事) (二)其結果

に於て(烈しき擯斥の事)イエス傳道は口畫或は序説として其物語中斯く初めに之を置きしとを臆へよ (五)之れ此福音書に性質目的を照す光也 (六)之が消息に就て他に言ふ所を見よ(可一〇十四、十五)

(四)治病は行爲(五十六―五十八を見よ) (一)四〇卅三―卅五、卅八―四十一節を熟讀斷味して(可一〇廿六、同一〇卅一、卅二、太八〇十六を参考せよ)病に罹れる者(一)形体的 (二)精神的 (三)道義的狀態を可及的明晰に考定せよ (二)惡魔に憑れたる人には有様を關して (一)一般通俗に解説 (二)ルカは意見 (三)イエスは思考を臆へよ (三)此場合於てイエスが感じたる感動(卅二、卅六)を深く考へよ(須氏基督傳五十九ページより六十

ページまでを見よ)此權威は (一)元來イエスは言と行と在りて存するか (二)其動作は不羈獨立に在るか (三)其品性自然的勢力に在るか將た (四)神と無比に關係を以て人傳道せしに在りて存するか(四〇一、十四、十八、廿一を参考せよ) (四)其行爲を關してイエスは説教に於ける之が關係を考ひて (一)之れ説教と同等に緊要あるもに在るか將た人は心を惹く爲に證據方法あるかを學び (二)其行爲がイエスに品性成就て何を啓示せしかを見よ

第四 宗教的教訓

本文に宗教的教訓の救拯は宣言を主とするに非らずや (一)救拯は道を宣傳する者の (一)誘惑を破て自ら克たざるべからざ

る事而して (ろ) 滿腔に精神を以て人情も同情同感を表せざるべからざる事 (は) 而かも權威を以て言ひ且行をさざるべからざる事 (二) 其權威之神は恩恵を賜ふ出づる事 (三) 其權威之管は言ふ於てはみならず行爲も於て顯之されたる事 (四) 其權威の或者は擯斥する所とあるを保せざる事 (五) 然れども自由も一般凡ては者も顯示せらるゝ事

課程第九、第十 發達及び衝突

(自五章一節至六章十一節)

(注意) 各課程を學ぶに當り本文の全節を通讀して其事柄の重要な部分を了知するを要す

(一) 材料の考試

左の順序に常に此學課に欠くべからざるものと知るべし (一) 一節或は一句を讀で其大体の主意を領する事 (二) 大切な字句或は難解の字句を考究する事 (三) 一節或は一句の主意を解釋し大切或は難解の字句を考定し而して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯す事 (四) 宗教的教訓を學ぶ事

其一 (五〇—一十一)

(二) 是等の節を讀で其主意を臆へよ、之れ四人の弟子の召されたる事にあらずや

(二) 左の語句を考究すべし (一) "Word of God : 神の語" : "Gospel" : "福音"と云ふに同じ路八〇廿一を参考せよ (二) "ゲネサレの湖" 書十二〇三約六〇一を見て之が他の名稱を知れ (三) "Sabbath"

down: 「坐して」四〇廿を参考せよ (四): all night: 「徹夜して」漁の好時間 (五): beckoned: 「相圖して」七節 (5) 勞れて言ふ能ひありし故乎 (ろ) 遙に隔たりありし故乎 四節を見よ (六): depart from me: 「我より離れたまへ云々」之れ (5) 神の權能を迷心的に恐れしに因るか (ろ) 自ら足らざる事、價値なき事を覺知せしに因るか (は) イエスに對して或特別の罪を犯したることを自認せしに因るか 將た (に) 報ひ難き恩惠を受けたることを知りて云ひし謙遜の言なるか 母後六〇九、伯四十二〇五、六、可五〇十七を参考せよ (七): left all and followed: 「一切を捨てて」從へり」之れ一時平永久乎

(三) 左に省約して言ふ所を考へよ

イエス、ゲネサレの湖の濱に在りし時、衆人傍に集りければ、彼シモンの舟に乗りて舟中より教を説けり、而して彼シモンも澳へ出で、漁れど命せり、シモン終夜所得なかりしにも拘らず、其命に従へり、果して多くの魚かゝりて網さけん、と、し他の舟を招きて助けを求めしに、二艘共お沈まんとせしかば、シモン恐れてイエスお去らんとを乞へり、イエス人を獲しめんとて、彼等を召し給へし、お彼等皆之にお従へり

(四) (一) 自己の經驗に反せる事を信じて能く従順なりし事、終夜漁して一も得る所なかりしかば、自己の經驗に於て、其時再び漁するの徒勞なるを認めおれり、左れば容易く人の言を容れて再び網を下すが如きとあらざるべきに、能くイエスの言を

信じて之に従へし事 (二) 恐くハ迷心的觀念なきにしもわらざりし事然れども (三) 自己の不完全なるを知りて謙遜し而して (三) 斯くも斷然一切を捨ててイエスに皈依したる事に就て學生宜しく斯る人の働を視るべし

其二 (五〇二十一—十六)

(一) 之を熟讀して其主意を言顯せ

(二) (一) "full of leprosy" "身ごとく癩病" 路加特有の書きかた
 四〇卅八に云へる "great fever" "重き熱病" と比較し見よ (二) "touched" "按けて" (十三節) (5) 治療の仕方 (ろ) イエス汚さるたり (癩病者ハ觸れて) (三) "the priest" "祭司" 祭司は殿に居る者也 利十四〇二を参考せよ 祭司と斯る關係を有する所以のも

のハ彼が律法上潔めらるたりと公言せられ而して再び社會と交際するを得んが爲め也 (四) "offer" "獻物をなせ" 利十四〇四—卅二を見よ (五) "unto them" "彼等" (ろ) 祭司等に (ろ) 人民にか斯くして全く治療せられたることを認められんが爲也 (六) "withdrew" "退きて" (い) 其名の聞えんことを慮りての故乎 或は (ろ) 汚れたるものとして人に擯斥せられんとを慮りての故乎 (七) "prayed" "祈り給ひ" ルカのみ斯く書せり

(三) 是等の節に含有せる事實を斯く云い如何
 癩病者イエスに求めて其病を癒されぬイエスは直に之に命じて律法を守らしめたりしも其評判擴がりてイエス爲に退

隠せり

(四) 彼はイエスの愛を疑ふと雖も其權能を信ずると深し

其三 (五〇七—廿六)

(一) 之を讀で其主意を知れ「癱瘋者の癒されたる事」

(二) (一) 其時の一日時日明瞭ならざる也 (二) パリサイ人「一宗教

社會 (三) doctors 〔教法師〕 teachers 〔教師〕と云ふに同じ (四)

every village 〔諸郷〕ルカ特有の書きかた (五) power of the Lord

etc. 〔主の能云々〕彼の時として之の能なしにありしか可

六〇五を参考せよ (六) their faith 〔彼等の信仰〕廿節 (七) 誰を

信ずる乎又 (八) 何を信ずる乎 (七) forgiven 〔赦さる〕 (八) 病

根に就て謂へる乎或 (九) 人の道德上の有様に就て謂へる

乎 (八) Son of man 〔人間の子〕 (九) 但七〇三十四を参考せ

よ (一〇) 之れキリストの名也然れども通稱にあらざる(舊約に於

て斯くいふなり新約に於ては通稱と謂て可なり) (一) 彼は平

民的にして万民に關係する事を明示す (二) イエスの神性と

人性とを兼ね特に呼んで人間の子と云ふ之れ明滅の間能く

其性格を顯すもの也 (九) hath power 〔權威ある〕即神に出

でたる權威 authority 也

(三) 左の如く省約せば如何

イエス説教中其前に來りたる癱瘋者の信あるを見て爾の罪

赦さると明言せり列坐せる多くの學者とパリサイ人の神に

非る者が斯る言を吐きしとを批評せしがイエスの命令の下

に癡癡者癒されて衆人驚愕の間に其家に飯へりけれバイエ
スガ斯る行爲を爲すの權威あるとを認めざらんとするも得
ざりき

(四) 學生宜しく之が重なる宗教的教訓の何たるを考定せよ

其四 (五〇廿七—卅九)

(一) 之を讀で其主意を考へよ、之れレビの召されたる事及び其筵
の席に於ての教訓「あらずや

(二) Behold 一見て意を注で視し也之れ (イ) 特々注意を惹起す
べきものありしむ因るか或い (ろ) 曾て面識ありしむ因るか

(二) "Place of toll" 一税關即 "custom-house" 也何故に其處之を
要せしや (三) レビ太九〇九云へる他の名を憶へよ (四)

his disciples 一彼の弟子等(卅節)ルカ其福音書於てイエス
との關係に於て茲に初めて此語を用ゐたり(五) eat and drink
「飲み食ふ」親密なる關係を云ふ (六) sinners 一罪人」とい (イ) 異
邦人の謂乎 (ろ) 律法を嚴格に守らざりし人の謂乎或い (ハ)
悖徳の行爲をなせる人民の謂乎 (七) sons of the bride-chamber
「新郎の朋友」新郎お侍べる者直譯せば「花婿部屋の子等なり
(八) shall be taken away 一別らるゝ(卅五節)イエスの死に就て云
ふ約二〇十九同三〇十四を参考せよ (九) new garment 一新上
衣(卅六節)ルカ特有の書きかた太九〇十六を参考せよ (十) 卅
九節「ルカのみ云へしもの也
(三) 學生宜しく是等の節を綜合して適宜に言顯すべし

(四)如何なる罪人もイエスの前に跪くことを恐るゝを要せずイエスの税吏罪人の中に坐し而して税吏を其弟子となし給へり

其五 (六〇—一十二)

(一)之が主意の安息日に於ける衝突あわらずや

(二)學生宜しく大切或の難解は語句を六ツ撰んで考究すべし

(三)左に省約して云ふ所を視よ

イエス其弟子が安息日お於て麥の穂を摘みて食ひしかば安息日を犯したるの謂を以て批難されたるを辨護しダビデが爲せし同様の所爲を引きて論じ而して自ら安息日に主たることを宣言せり又安息日に會堂に在りて前と同様の犯罪お關して争のんと待構へる者の面前お於てイエスの其善を行す

の權威あるとを公言して右の手枯たる者を醫やしたり於是乎彼等大に怒りイエスを處するの方法を議しぬ
(四)之が大切なる教訓の嚴格に儀式に拘泥するの非なる事お在て存せざらんや(之れ害悪の病根を取除くに足らざれば也)

(二) 材料の類別

第一 本文に含有せる事柄及び總括

(一)本文に含有せる事柄、左の材料類別表を熟讀斷味して能く之に通曉するを要す

發達及び衝突

(イ)四人の弟子の召されたる事

(ろ)癩病者の醫されし事

(ハ)癡瘋者の醫されし事

(ニ)レビの召れたる事及び其筵の席に於ての教訓

(ハ)安息日に於ける衝突

(二)總括 自五章一節至六章十一節を綜合して簡略に左の如く

言いよ如何

(イ)四人の弟子とレビを召し (ロ)癩病者癡瘋者を醫し (ニ)罪

を赦すの權威を宣言し (ハ)徒に儀式律法に拘泥するの非な

るを説き (二)以て漸く發達しつゝある間お (イ)神お非ざる

者が罪を赦すの權威を冒認し無頼の民と交り (ロ)安息日に

行すまじき行爲を行しと謂を以て (二)非難の聲起り茲に衝

突を來しぬ

第二 材料の視察

左に言ふ所の事實結論の本文と緊要なる關係あるを以て熟讀
斷味するを要す

(五十九)(五〇一)十五、十七、廿九)イエスの當時凡ての階級の人民に

注目の焼点たり(須氏基督傳四十九ページより五十ページま

でを視よ)

(六十)(五〇三、五、八)是等の關係を見れば惟ふにイエスとシモンハ

從來の交誼ありしならむ四〇卅八に謂ふ所亦同一の關係を

意味す

(引証)彼等のイエスが野にて誘惑を受けしも之を斥けて飯へ

りし時已にイエスのメシアたるを知り得て之に服従せし也

……イエスが其弟子を集むるの時期に際して彼等を召す何ぞ怪しむに足らん若し夫れ彼等にして未だイエスの弟子たらず其傳道事業の何たるを知らず神の國の性質を解せざりしなれば焉んぞ斯る召集の言の彼等に宣べらるゝとあらんや」 Eidersheim, *Life and times of Jesus*, I., pp. 474, 475.

(六十一)(五〇六)是れ創造的奇跡平權能的奇跡平將た智識的奇跡平(引証)之が奇跡の魚の群集せる場所を洞見せられしに在て存す」 Eidersheim, I., p. 476. 又 Bruce, *Miraculous Element in the Gospels*, p. 229, 230. を参考せよ

(六十一)(五〇十)此奇跡を行しゝの召集の事に關して彼等に暗示する所あらんが爲め也

(引証)基督の目的の音に弟子の心を收攬せんが爲めのみならずして彼等をして其新に執らんとする職に熱中せしめんが爲めなり彼等の未來に於て使徒として人を漁る者として社會に立たんとする者なれば其新職業と舊職業との關係に於て之が奇跡の彼等に感動を與ふる蓋し偶然あはらざる也豈啻超自然的權能、智識を顯はす爲めのみならんや」 Bruce, *Miraculous Element in the Gospels*, pp. 231.

(六十三)(五〇十二—十四)イエスの(一)自己を以て律法以上の者即律法の制裁を受くべからざる者とし(二)癩病者に在ての律法に従ふべき者なるを主張せり

(六十四)(五〇十三)癩病の獨り神の權能に因て斯く速に癒され得

る所の病也

(引証)何等の治療、妙薬、魔術を用ゐるも如何に深き同情、同感、を以てするも、癩病のみ癒されざる也。猶太の學者の手に成れる記録に、疾病の種々の種類、お關して、教示する所あるも、癩病のみ、其目錄中に在らざる也。Eldersheim, I, p. 491.

(六十五)(五〇十六)イエスの休息と信仰の爲に暫く退隱する時々之れありし也

(六十六)(五〇廿一)學者等が心に思ひしのみにて沈黙しおりのイエスの奇跡の實事あるを証する要件たらずんば、あらむ(六十七)(五〇廿七)生活の方針を變じ、職業を更ふる場合に於て改名するの猶太人に在りての通例ならずとせず、五〇八、六十六

〇十七、十八、徒十三〇九を参考せよ

(六十八)(五〇廿七)イエスの言ひ、凡る師たる者が其恒久の弟子として招く所の正當の誘引也

(引証)我に従へてよ、一句の師の恒久の弟子となるべき招引を意味するものとして、容易に了解せらるべし。夫れ師が自己の許に弟子仲間を召集するとの音に、猶太の師匠間に行われし所なるのみならずして、師たる者の最も聖き本分の一として、思惟せられし也。是を以てペテロ、アンデレ及びゼベダイの子等も皆基督の召を誤解せざりし也。否、不思議の念ひをも爲さざりし也。Eldersheim, Life and Times of Jesus, I, p. 474.

(六十九)(五〇卅一、卅三)イエス大眞理を簡短なる文章中に包含せ

しむ(須氏基督傳五十七ページ「然と雖」より五十八ページ「四行
目までを見よ」)

(七十)(五〇卅六)イエスの屢々譬喩を用ゐて談話をなせり

(七十一)(五〇卅三)パリサイ人のイエス及び其弟子等の敬虔の表
徴或の方法として斷食するならんと思惟せり

(七十二)(五〇卅五)イエスの傳道に従事せし當初より業に已に來
らんとする無慘の死を覺悟せり

(引証)イエスの自己が革新者として世より受くべき懲罰を先
知せしかば其弟子等に彼等が他日斷食するの理由を見出す
べき時あるとを暗に知らせんと欲して此簡短而かも意味深
き譬喩を曰へし也彼の世と合ひざる終極の結果を洞察して

十字架を認めたり Bruce, Galilean Gospel, p. 190.

(七十三)(六〇三)イエス及び其弟子が必要上律法を破り且之が行
爲を安息日に於て行しよとの却てイエスの爲に屈強の論據
を備へたり

(七十四)(五〇十七、廿一、六〇二、七、十一)パリサイ人がイエスに反對
する氣焰の次第に高まるとの此談柄中に於て明に認めらる
(引証)是故にイエスのパリサイ人の眼前に律法を破りたる
者にして安息日に於て神を冒瀆したるの謂を以て其罪死に
當れりイエスの安息日に於て病人を治療し以て其日を犯す
の權能を自認したるのみならず衆人の面前に於て律法の頑
守者を批難して痛く之を辱しめ彼等をして黙して言ふ能は

ざらしめたり是より以後のパリサイ黨のイエスに對する唯
之を殺さんと欲するの一念ありしのみなり彼を死に處せん
と欲するの念の彼等の胸中に鬱勃として蟠れり Weiss II., p.
241.

第三 學課の題目

(一)弟子の召されたる事(六十、六十二、六十七、六十八を見よ) (二)五
〇一―十二、廿七、廿八の出來事(有様及び之に關する詳説を
可及的明白に描寫せよ) (三)約一〇卅五―四十二を參考し而
してレビが召されて直に之に應じたるを考ふるときレ
ビも亦イエスと舊知ありしとを推知し得べし (三)可一〇十
六―廿及び太四〇十八―廿二を路五〇一―十一に比較して

前者の後者と同一の出來事を云へるや否を決定し果して同
一の出來事なりとせば後者のペテロに對する特別の招呼と
して説明せられ得る乎 (四)イエスの働に關して其針路の要
領を考へよ

(三)イエスの或教訓(六十九―七十一を見よ)是時イエスの注入し
たる或主義を見よ (一)五〇廿九―卅二、罪人と交る事を教ふ
(引証)イエスの不徳に沈める者のみを助けん爲に來れりとの
言はず彼の病める者の爲に其醫者として來りしが故に凡る
彼に依りて治療を求むる病人を能く助くるとを教示せし也
Neander Life of Christ, S. 140.) (五)彼(キリスト)の何人ぞや(卅一節)而
して(ろ)彼等(罪人)の何人にして何を要せしや(卅一、卅二節)を

示して兩者の關係を教ふ、(二)五〇卅三—卅五、イエス弟子等の正しき精神を喜んで教ふ。(い)俱に其處に在せしが故也。(ろ)禮拜(斷食に就て)の方式を指定せり。(三)五〇十一、十三、廿四、廿七、卅四、六〇五、イエス其弟子等の品行精神を考察して而して後權威の中心且本源の自己に在るを教ふ、(四)五〇卅六—卅九、イエス其事業の無比なるを教ふ。(い)舊き方式に依らずして獨立なる事(卅六節)。(ろ)新しき人に依て行はるべき事(卅七、卅八節)彼の教理の夥多の先例に拘束せられ無数の僻見に阻滯せられたるイスラエルの教師に信託せらるべきものに非ずして狐疑なく彼の教訓を受容れ而して之を修飾取捨するが如きとなく清淨潔白のまゝにて敬虔なる人に傳へ

んとする公平無私の人に信託せらるべかりし也 Pulp. Com. p. 119. (は)他の者が之を採用するの甚だ遅々たる事(卅九節)。(三)イエスに反對する事(七十二—七十四を見よ)。(一)パリサイ黨がイエスに敵對する度の次第に高まるを詳しく順序を追て見よ、約二〇十八同四〇一を参考すべし。(二)敵對の度を増す原因。(い)イエスの行為に於て。(ろ)其教訓に於て。(は)其權威を自認する事に於て。(三)イエスの言行が如何に正直なる宗教家の心をも動かして敵對の氣焰を増加せしめしかを考へよ。(四)パリサイ黨の敵對の獨り彼等の敵對に止まらざる事

第四 宗教的教訓

本文全体の宗教的教訓を學べイエス、キリストに服従せる者と

反對せる者どに區別せば (第一) 漁者、稅吏之に服従せり、彼等ハ
 (イ) 直にイエスの言に従へり (ロ) 一切を捨てり (ハ) 反對を恐れ
 ざりき (第二) パリサイ人之に敵せり、彼等ハ (イ) 宗教社會の師
 匠、先導者なり (ロ) 其敵對ハイエスの宣言、教訓、舉動に基因せり
 (ハ) 彼等ハ屢々不正、貪慾ありき (ニ) イエスの品性、權威に就て明
 白に聞きし者也

課程第十一、第十二 新方法及び訓誡

(自六章十二節至四十九節)

(注意) 各課程を學ぶに當り (一) 前課程の材料を再閱し (二) 現課
 程として定められたる全節を通讀して、其事柄の重なる部分
 了知するを要す

(二) 材料の考試

左の順序ハ此學課に欠くべからざるものと知るべし (一) 一節或ハ
 一句を讀で、其大體の主意を領する事 (二) 大切なる字句或ハ難
 解の字句を考究する事 (三) 一節或ハ一句の主意を解釋し、大切
 或ハ難解の字句を考定して、而して後之に因りて、其節句に含有
 せる事柄を明晰に言顯ハす事 (四) 宗教上の教訓を考ヒ學ぶ事

其一 (六〇—二一九)

(一) 之を讀で、其主意を言顯ハせ
 (二) 左の語句を大切なりとす (一) "the mountain" 「山何處乎」 (二)
 "prayer" 「禮拜の祈禱」 (三) ルカのみ斯く録せり (四) 將に其弟
 子を撰ハんが爲に (三) "Bartholomew" 「バルトロマイ」(十四節)

(一)其意味如何 (二)恐くハナタナエルと同一ならん約一〇四十五―四十九を参考せよ (四)“Zealot”「ゼロテ」奮發家を意味す (五)何故に斯く呼ばれしや (六)可三〇十八に謂へる者の別名 (五)“Tudas”「ユダ」可三〇十八太十〇三に謂ふ所の者の別名 (六)“Iscaiot”「イスカリオテ」(一)其意味如何 (二)ユダの性情十五〇廿廿五を見よ (七)“was”「なり」“became”「なりし也」の優れるに若かず (八)“level place”「平かなる所」太五〇一に云へるのと比較して考定せよ (九)“multitude of disciples”「大衆の弟子」之れ (一)使徒等より區別し又 (二)人々より區別して云へる也 (十)“great number”「多數の民」イエスの名聲の揚れるを知るに足る

(三)左の如く省約して云ふ如何

イエスの高原に於て終夜祈禱の後遂に十二人を使徒として撰定し而して彼等と偕に夥多の弟子及び病を醫されんと欲して四方より集まれる人々に遇へり

(四)イエス其傳道上補助を要せしを以て自己を助けしめんが爲に斯る人々を撰擇せし事に注目せよ

其二 (六〇廿―廿六)

(一)自廿節至四十九節の主意ハ「イエスの山上の訓誡」に非ずや而して自廿節至廿六節の主意ハ「新社會の會員」是れなり
 (二)左の語句ハ考究すべき大切なるもの也 (一)“disciples”「弟子等」イエスに付き従へる夥多の者 (二)“separate you”「爾を絶け」

て之を實行せよ、然らば爾の天父の如くならん、爾の他人に對して爲る如く、爲られん

(四)之が緊要なる教訓の左に言ふ所ならずや、他人に對して愛の精神を懷くとの眞の品性の元素にして且最大幸福の本源也

其四 (六〇卅九—四十五)

(一)之が主意如何、之れ新社會の精神—潔白にあらすや

(二)左の語句を學べ (一)“perfected”「熟達したる」(四十節)即ち教訓の實を充分に刈入れたること (二)“note”「わらくぐ」即ち“stalk”

(三)“hypocrite”「偽善者」如何なる意味にて云へる乎

(三)左に言ふ所を考へよ

盲目者の盲目者を安全に導く能はず、弟子の其師に優る能はず、自己の目を明にするに非ずんば、他人の目にある物屑を見る能はず、木の其性質に因て實を結び、人の其品性に本て言ひ且行ふもの也、人宜しく精神を潔白にすべし

(四)學生宜しく之が重要なる宗教上の教訓を考ふべし

其五 (六〇四十六—四十九)

(一)之を讀で其主意を知れ、新社會の精神—從順是也

(二)(一)“Lord”「主」(一)其救主たることを暗示す (二)或者の已に彼の救主たるを認めたり (二)“stream brake”「横流りの家を衝く」

(四十八節)之れ該地方特別の出來事也

(三)學生宜しく之を省約して言顯すべし

(四) 聴て行いざるの全く聴かざるに劣るや否やを考へよ

(二) 材料の類別

第一 本文に含有せる事柄及び總括

(二) 本文に含有せる事柄、左に掲ぐる材料類別表を熟讀して善く之に通曉するを要す

新方法及び訓誡

(イ) 撰まれたる十二人

(ろ) イエス山上の訓誡

(二) 新社會の組員

(は) (二) 新社會の精神—愛

(に) (三) 新社會の精神—潔白

(は) (四) 新社會の精神—從順

(二) 總括 本文を總括省約して左の如く言ひ如何

イエス十二人を撰抜して使徒となし之と偕に衆人に遇ひて其病を醫せり、イエス彼等に謂て曰く神の御國の貧困難澁なる者の属する所にして富者の属する所にあらず爾等宜しく凡ての人に對し愛の精神を有て人の己に爲さんと欲するが如く爲して愛を顯ゆすべし爾等先づ自己を潔白おするに非れば人を正しく審判さ又之を助くる能はず爾等自己の品性に本て言ひ且行ふべし我が言ふ所を實行せよ之れ爾等に取て獨り安全の道也

第二 材料の視察

左に云ふ所の事實結論の本文の材料と緊要なる關係あるを以て熟讀斷味するを要す

(七十五)(六〇)(十二)イエスが是時斯くも長く祈禱に時を費せしん最も大切なる目最も困難なる或事を擔任せらるべきことを暗示せるものゝ如し

(引証)凡ろ祈禱の獨斷自立の反對を意味す我儕の爾に依らざれば何事をも爲し能はずと之れ眞の祈禱也彼の祈禱の實に眞正の祈禱なりしが故に其祈禱の誠に此意味を含むものたらざるべからず Maurice, Gospel of the Kingdom of Heaven, pp. 97, 98.

(七十六)(六〇)(十四)(十六)彼が撰拔せし十二人中或者の親戚たり

或者の漁者たり而して一人の革命者一人の稅吏たりし也

(引証)使徒の撰擇の救世主の崇敬すべき智慧の最も赫々たる證據の一なり (一)彼の單絶なる精神を有して而して已に幾分か資格ある人々を撰めり (二)其人數の少しと雖も人物の甚だ雜駁也 (三)或者の嶄然頭角を現ひし或者の甚だ著しからず彼の之を合せて一小團體を作れり蓋し將士の配合宜しきを得たりと謂ふべし Van O., p. 97.

イエスの其使徒として漁者稅吏及熱心家を以て満足せざるを得ざりき是等の者の當時イエスが用ゐ得たる最適任者たりし也……彼の其撰擇を以て全く満足せり Bruce, Training of the Twelve, p. 37.

吾人の左に言ふ所を首肯せんと欲す中畧 (一)使徒中平凡なる者と雖もイエスの爲に其証人として最も有用たらずんば
 わらざりし也中畧 (二)十二人中三個絶倫の士或は二人即ペ
 テロとヨハ子ありし好配合也中畧凡る團體に在て衆悉く
 領袖たるとき善からざるものなり中畧 (三)吾人の各使徒
 に關して知る所甚だ少々なるを首肯せざるべからず、Bruce,
Training, pp. 38, 39.

(七十七)六〇廿此に録されたるイエスの教訓の弟子等に告示せ
 られたるもの也而して之が教訓と使徒の撰拔との間に或關
 係あるもの如し
 (引証)是故に十二人の使徒の召されたるこの神の御國に關す

る大教訓の序として之を考ふるを得蓋し彼等の爾後神の御
 國の建設せらるゝや其重なる者たるべかりし也 Bruce, *Train-*
ing, p. 31.

山上の垂訓の神の御國の役員の撰定に次げる自然の結果也
 Vallings, p. 98.

(七十八)六〇廿廿一イエスの貧窶の民に望む所富者に望むより
 大なりき

此事お就て Bruce, *Galilean Gospel*, ch. iii., pp. 43-55. を見よ

(七十九)六〇廿二彼の自己及び其弟子等が逢遇すべかりし反對
 を先見せり

(八十)六〇廿一廿六此告示の格段なる時に於て格別なる人に言

入れたるものゝ如し故に其教訓の一種の歴史的根據を有す
 (引証)予の心の貧しき者の福也云々の記者セント、マタイに多
 謝す中畧吾人の之に依て後にセント、ルカの記事を學ぶに於
 て大裨益を得然れども予のルカの辞のルカの辞として之を
 採らざるべからずルカに云へり我儕の主の衆人を目を放て
 りと彼の其衆人が悉く天國に屬するの精神的資格を具備せ
 りとは思惟せざりき Maurice, p. III. 之れ壓制なる儀式的宗教
 と苛察勒索の政府とを苦められたる或特別の聴衆を告げら
 れたるものなりき Lindsay, p. 103, 及び p. 104.
 (八十一)六〇廿九卅彼の或訓誡の最も危き無限の性質を有した
 るが如し

(八十二)六〇卅八、四十、四十一、四十七)イエスの猶太の教師間に普
 通に用ゐられたる諺或の譬喩を用ゐたり(之が夥多の例の
 エギー、シエーム氏の基督傳一卷自五百卅一ページ至五百四
 十一ページに在り)

第三 學課の題目

(一)十二人、ストルカ一の基督傳百〇五節―百〇八節及びブル
 ース Training of the Twelve 四章を見よ(七十五、七十六を見よ)(二)
 此小團體の組織の時機に關して學べ之が組織の成るや(イ)
 間もなく反對の暴發せし事(ろ)イエスの名聲の漸く高まり
 し事(三)撰まれたる人數に就ての意味(太十九〇廿八、路廿二、
 卅を見よ)(三)十二人の各自獨特の性質並に團體としての特

有性いりせいに注目ちゆうもくせよ例たとへば (一)其國民的性情そのこくみんてきせいせう (二)其教育そのけいよく (三)其社交上の位置しやうじやうのいち (四)其個人的性情そのこじんてきせいせう (五)相互の關係さうごのくわんけい (六)斯る人物を撰擇せんたくしたる理由りゆう (七)他に適當てきたうの者なかりしが故ゆゑに止むを得ずしてか (八)イエスと從來じゆうらいの關係くわんけいありしお因よるか (九)彼等かれらの其品性そのひんせいの他に優まさりしの謂いひを以て撰えらまれしか (一〇)彼等かれらとイエスとの關係くわんけい可三〇十四十五を參考さんかうせよ (一一)此新團體このしんだんたいに因よつて得えたる利益りえきの或者あるものを枚舉まいきよせよ使徒しとの召集せうしゆ薰陶くんとうせられたるそのイエスの事業じぎふ中最も著しきもの一いつなりき中畧ちゆうりやく彼の公おほみやけの事業じぎふの其撰そのえらみたる証人しやうにんの薰陶くんとう教導けうたうを中心ちゆうしんとして凡て之これに集あつまれり中畧ちゆうりやく彼の彼等かれらを薰陶くんとうせんが爲ために時ときと力ちからの過半くわはんを費つひやせり而して其公衆そのこうしゆ中に働はたらける時ときすらも常に彼等かれらの事を

念頭ねんたうに掛かけり中畧ちゆうりやく故ゆゑに吾人われの彼等かれらの撰せん拔はつせられたる時ときを以て彼かれが公生涯こうせうがいの適當てきとうなる中心ちゆうしんと思惟しむす」Van, O., p. 97. 「彼自身かれじしんの行爲かうゐ品性ひんせいの顯現あらわれの間接かんせつに直接ちやくせつに彼等かれらの道德的だうとくてきせい精神的しんてきせい薰陶くんとうの重おもなる要素ようそたりし也」Valings, p. 98) 例たとへば (一)彼等かれらの上に専もつてら集あつめられたるイエスの勢力せいりき教訓けうくん (二)大團體だいたんたいの弟子でしの爲ために設まけられたる焼点せうてんとして (三)之これに依よつて福音ふくふんを一層いつそう擴ひろく宣せん傳でんし得えたる機會きくわい (四)イエスの死後しご其証人そのしやうにんとしての團體だんたいなる事こと

(二)山上さんじやうの訓誡くんかい(七十七—八十二を見よ) (一)此本文このほんもんを太自五章至六章の記事きじと比較ひかくして左の大体だいたいに注目ちゆうもくせよ Weiss, II., pp. 139-141. Van, O., p. 100. Farrar, p. 106 を參考さんかうせよ (五)ルカの言いふ

所の材料の一層多き事 (ろ) 猶太の事 (は) イエスの訓誡に就てルカの録す所の寧ろ抽象的總論的なる事 (二) 其等の事實及び他の事實を考究して (イ) 二者の記録の同一の論説なるか或の別種のものなるかを定めよ (ろ) 若しも同一なりとせば其相違に關する説明如何 (は) 二者孰れか原文に近き乎 (三) 其訓誡の目的 (イ) 單に神と本分とに關する一般の教訓に過ぎざるか將た (ろ) 使徒の撰擇に因て明かにせられたる神の王國の新組織の主義に關して明瞭なる説明を與ふるに在るかを考定せよ Godeft, Luke (3d. Fr. ed.) I., pp. 423-426. Weiss, II., p. 161. を見よ (四) 此論説の歴史的根據の告示せられたる人及び謂ふ所の實行に在るとを注目せよ (五) 此論説の一般

の目的及び其分類に注目せよ Lindsay, I., pp. 104-108 を見よ (六) 或特別の要点不就て考へよ (イ) 富者貧者に關する教訓 (六) ○ 廿一—廿五 (ろ) 六〇廿九卅の教訓言外に含める主義 イエスの實行 (約十八〇廿二、廿三) 其解釋 (七) 明に福音的なるものにして省畧せられたるもの少しとせず如何に之を説明せんか此點不就て明瞭なる言顯の載て Bliss, Commentary, pp. 125, 126 に在り

第四 宗教的教訓

此本文の神の御國の民として必要なる資格の事を主とするものに非ざる (二) 神の御國に入らんと欲する願望及び之に入る必要なる資格を得んと欲する事之に入るに先ちて感得せ

らるべきものとす (二)無私的愛の精神の必らず養成、顯示せられざるべからず (三)正廉潔白なる事の先づ必らず求めらるべきものとす (四)基督に従順なる精神の神の御國に屬する眞正、恒久の民として欠くべからざる事なりとす

課程第十三、第十四 イエスの名聲の揚る事

(七〇一—五十)

(注意)各課程を學ぶに當り (一)前學課の材料を再閲し (二)現課程として定められたる全節を通讀して其事柄の重なる部分を了知するを要す

(一) 材料の考試

左の順序の常に此學課に欠くべからざるものと知るべし (一)

一節或の一句を讀で其大體の主意を領する事 (二)大切なる語句或の難解の語句を考究する事 (三)一節或の一句の主意を解釋し大切或の難解の語句を考定して而して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯す事 (四)宗教上の教訓を學ぶ事

其一 (七〇一—十)

(一)是等の節を讀で其主意を隱へよ「百夫の長の僕の醫されたる事」是也
 (二)左の語句の大切なるものに非れば則ち難解のものなるが故に宜しく注意すべし (一)「he sent」遣ひして (三)節太八〇五を參考して相違の廉を説明せよ (二)「elders」長老等「即ち村の役人

にして會堂に關係あるものに非ず(三)「he loveth」彼の我民を愛し(五節)彼の改宗者平(四)「sent friends」朋友を遣ひして(六節)太八〇八を參考して説明せよ(五)「not worthy etc.」憚多し(直譯足らず)云々彼の心中道理なき妄信ありし乎(六)「marvelled」奇み之に因てイエスの性質に就き何を知り得る乎(七)「so great faith」斯る篤信之れ (い)其觀念の大坦なるに於て(イエスの一言)以て重病を醫やすに足ると念ふ其觀念の大坦なるや知るべきなり(ろ)難を易とするに於て見らる

(三)左の如く省約して云い如何

カペルナウンに於て長老等イエスに求ふにイエスを愛して之に厚き百夫の長の僕の病を醫されんとを以てす、イエス乃

ち往きしに百夫の長人を遣ひして云へける、主の來駕を煩ひすの憚多し、將校其士卒に命ずるが如く唯一言を賜らば賤僕の病愈へんとイエス其篤信を激賞して僕の病を醫やし給へり

(四)之が著しき宗教的教訓の羅馬の百夫の長の篤き信仰と誠の謙遜とに在て存せざらんや

其二 (七〇十一—十七)

(一)之を讀で其主意を臆へよ、之れ寡婦の子の甦へらせられたる事に非ずや

(二)考究すべき語句の左の如し(一)「soon afterwards」間もなく之れ時日明確ならざる也(二)「Zinn」ナイン(三)何處乎(ろ)ルカの

み之を記す (三) "carried out" 「昇出さる」十二節其死入の市外に埋葬せらるべき也 (四) "touched" 「按へければ」十四節イエス自らを不浄となせり民十九〇十六を参考せよ (五) "great prophet" 「大なる預言者」王上十七〇十七一廿三に云へるエリヤの如きなり

(六) "he has visited" 「眷顧たまへり」路一〇六十八を参考せよ、之れ神救主に依りて祝福を賜ふの時 (七) Judea 「ユダヤ」とり (五) パレスタイン全体を云へるか將た (ろ) ガリラヤよりユダヤに亘りて云へるか (八) "region" 「邊境」十七節即ちユダヤの國境也

(三) 學生宜しく是等の節に含有せる事柄を言顯ひすべし

(四) イエスが人の難儀を恤みて同情を表せらるゝや嘗に之を言に顯ひさるゝのみあらずして行に顯ひさるゝと何んぞ夫れ此の如く篤きや

其三 (七〇十八一廿三)

(一) 之が主意のヨハ子がいエスに使を遣ひせし事にあらずや (二) "disciples of John" 「ヨハ子の弟子」(五) 彼にも弟子ありき (ろ) 彼等の何故にいエスに従屬せざりしや (二) "he that cometh" 「來るべき者」どの即ちキリスト也創四十九〇十賽五十九〇廿馬三一を参考せよ (三) 廿節此使の目的何ぞや (い) 疑心をはらさん爲めか或の (ろ) 彼其弟子に信念を起さんが爲めか或の (は) 彼、イエスの舉動方法に就て待遠しく念ひしに因るか (二)

O., p. 115. *Paul. Com.* p. 172. に言顯いひあらはされたる種々しゆくの意見いけんに就つて見よ(四)「tell John」往ゆきてヨハ子ヨハ子に報告ほうこくせよ(廿二節)賽廿九〇十八同卅五〇四一六同六〇一一三を参考さんかしてヨハ子ヨハ子が之これに因よて如何いかに覺悟かくごせしやを考察かうさくせよ(五)「blessed」福也さいはひなりけんせき「譴責けんせきの意味いみを含まざるか

(三)左さの如ごとく云いひよ充分ちゆうぶんならずや

ヨハ子ヨハ子のイエスの所業しよげふを聞き其果そのはたして實じつにキリストなりや否いなを確たしかめん爲ために弟子でしを遣つかはせり、イエス乃すなはち答こたふるに其時そのとき行なしたる疾病治療しつべいぢりやうの事こと及び貧人ひんじんに對たいする教訓けうくんに就つて注意ちゆういせんとを以もつて且かつ我われを疑うたがはざる者ものの福也さいはひなりと曰いへり

(四)學生宜がくせいようしく之これが全節ぜんせつに含有かんいせる宗教的しゆけふてきだいしんり大具理だいぐりを考察かうさくすべし

其四 (七〇廿四—卅五)

(一)學生宜がくせいようしく之これを讀よんで其主意そのしゅいを言顯いひあらはすべし

(二)大切たいせつなる語句ごくの左さの如ごとく(一)「began to say」曰いひ始めける(二)「即すなはち proceeded to say」進すすんで曰いはく「衆人しゆじん」之これ

に因よりイエス及びヨハ子ヨハ子の人望じんぼうありしとを知る(三)「in kings' courts」王わうの宮みやヨハ子ヨハ子の其處そのところに在あらざりし乎か(四)「more than a prophet」

「預言者よげんしやよりも卓越すやくれたる」何故なにゆゑ乎か(五)「none greater」ヨハ子ヨハ子より

大なる預言者よげんしやのなし之これれ(六)其個人そのこじん的てき品性ひんせいに於おてか或あるひは

(七)其位置そのいち職務しよくむに於おて乎か(八)「Kingdom of God」神かみの聖政まつりごととい即すなはち

イエスの建設けんせつしつゝある所ところのもの也なり、ヨハ子ヨハ子の神かみの聖政まつりごとに屬ぞくする民たみにあらざりしか路十六〇十六太十一〇十二を参考さんかせ

よ (七) "greater than he" 「彼よりの大なる者也」之れ (イ) 品性の
 點に於て言へしものなるか或の (ろ) 智識の點に於てか或の
 (ハ) 位置、特權の點に於てか (八) 廿九、卅節 (イ) 之れイエスの言
 なるか或のルカの註釋的記事なるか (ろ) 之に因てヨハ子の
 傳道の性質及び其區域を知る (九) "justified" 義とせり「廿九節」即
 ち彼等のバプテスマを受て神がヨハ子に依て悔改とバプテ
 スマを宣傳しめ給へし神の正且義なるを承認、宣言せし也
 (十) "rejected" 「空くせり」即ち自ら神の恩恵を放擲せし也 (十二)
 "call one to another" 「互に呼ぶ」(五) 吹笛者歌、悲者とのヨハ子と
 イエスを云ひ他どの人民を云へるものか或の (ろ) 吹笛者歌
 悲者どの人民を云ひ他どのヨハ子とイエスを云へるものか

(ゴデット氏著ルカ傳註釋に於て此譬喩に就て一種獨特の興味
 ある意見を載せり又 Bruce, Parabolic Teaching of Christ, pp. 413,
 sqq.; Trench, Studies in the Gospels, pp. 147, sqq. を見よ)

(三) 是等の節を省約して斯く云ふ如何
 ヨハ子の使者去りし後イエス衆人に曰ひける「爾等の何を
 見んとて野に出でしや風に動かさるる葦を見ん爲めか或の
 宮人を見ん爲めか將た預言者を見ん爲めかヨハ子のキリス
 トの先驅者として預め定められたる者にして預言者よりも
 卓越れたる者也然り彼の偉大の人物なり然れども我に従ふ
 至微者の彼よりも大なる者也衆人ヨハ子のバプテスマを
 受て神の聖意に従ひしものパリサイ人の之に背けりイエス又

譬喩を以て此代の人々の童子仲間わらべなかまの如く相互の喜びを喜びとせず相互の悲しみを悲しみとせずしてヨハ子の隠世的悲哀あひたがひ、イエスの社交的歡樂しゃくわいを誤想ごそうせり然れども智慧の智慧の子ちえに義とせらると曰へり

(四)一ヨハ子の信仰の莊重嚴格にして (二)一種悄酷なる人物を現出せる事 (三)然るにイエスの歡樂と惠愛を以て社會に出でし事 (四)イエスに従ふ者の至微者と雖もヨハ子より大なる事 (五)然かも尙ヨハ子及びイエスを擯斥する者あるを免れざる事等に注目せよ

其五 (七〇卅六―五十)

(一)之れパリサイ人の家に於けるイエスと婦人の事を録せるに

あらずや

(二)學生宜しく出來得る丈だけけ綿密に大切或の難解の語句を撰定考究すべし

(三)左の如く省約して云い如何

イエス、パリサイ人と食する時一娼婦來りて涙を以て彼の足を濡し首の髪を以て之を拭ひ又香膏を之に抹れりパリサイ人之を見てイエスの心中を疑へり然れどもイエス二人の負債者の事に喩へて説き示せしにパリサイ人も負債を免されたる二者中其金額の多き者の少き者よりも感謝する事大なりと自白せり、イエス又曰く爾の我に薄し然れども此婦の我に厚くして通常の勤仕に過ぐ此婦の罪の大なりと雖も其愛

の深きによりて救されし也と同坐の者イエスが罪を赦すの
 權威に就て疑を懐きしもイエスの婦に向て爾の信の以て健
 康と平和を爾に與へりといへり
 (四)之が教訓の (一)如何に大なる罪も救さるゝを得る事 (二)イ
 エスを愛するの念の罪を自認して其赦免を感ずるの度に比
 例する事 (三)大なる罪人の大なる聖徒とあるを得る事等に
 就て考究せよ

(二) 材料の類別

第一 本文に含有せる本文及總括

(一) 本文に含有せる事柄、左に掲ぐる材料の類別を熟讀して善
 く之に通曉するを要す

イエスの名聲の揚れる事

(い) 百夫の長の僕の醫されたる事

(ろ) 寡婦の子の甦へらせられたる事

(は) ヨハ子イエスに使を遣はせし事

(に) ヨハ子に對するイエスの証言

(は) パリサイ人の家に於けるイエスと婦人の事

(二) 總括、本文に含有せる事柄を總括して左の如く言ひ、如何
 カペルナウンに於て百夫の長其死なんとせる僕を醫されん
 とをイエスに求めて曰く單に平癒を命せられなば則ち足れ
 りと、イエス其篤信を嘉して僕の病立るに醫されたりナ
 ンと云へる邑に近き所にて將に葬られんとせし寡婦の子衆

人の驚愕のうちにはイエスの魁へらする所となれりヨハ子使
 者をイエスに遣ひして其救主たる事に關して問ひしにイエ
 スの仁愛的所業を以て答へられたりイエスヨハ子と呼んで
 預言者よりも大なる者なりとせり然れども寧ろ彼自身の天
 職を祝し而してヨハ子及びイエスを擯斥せる此代の人々を
 批難せりイエス、パリサイ人の家に在りて一娼婦に香膏を抹
 られし時大なる罪を赦されたる彼女の愛の深きとを言顯
 して爾の信仰によりて救はれたり安心して往けと曰へり

第二 材料の視察

左に云ふ所の事實結論の本文の材料と緊要なる關係あるを以
 て熟讀斷味するを要す

(八十三)(七〇二)恐くは是時カペルナウンに番兵置かれしからん
 (八十四)(七〇四)此外國の役人の猶太の宗教に心傾きおりて善人
 たり得し也

(引証)彼のカペルナウンの常備兵百人の長にして高位の軍人
 ありきヘロデ、アンチバスの羅馬式に據て其軍隊を組織し而
 して自ら羅馬の役人の俸給を支辨せり中略此百夫の長の割
 禮を受けざるもモーセの律法に従はずしてイスラエルの神
 を禮拜せし所の善人とあるを得べき徒の一人なりき Weiss,
 II, pp. 44, 45.

(八十五)(七〇六、七〇七)主てふ語の福音書に在てイエスの通稱にあ
 らず但しルカの書に於ての他の福音書に於てよりも屢々此

語を用ゐたり

(八十六)(七〇十)此治療の離れて行われし也一語をも發せざりしに似たり

(八十七)(七〇九)イエスの恰も斯る篤信を見出すとを期せざりしかの如く驚けり

(引証)イエスが斯る篤信に驚きし事の吾人の見て以て之に倣いんとを暗に教へられしもの也イエスの吾人の善を歎賞せらるるキリストの此舉動の心の攪亂せる表徴に非ずして實に吾人に實例を示して鼓舞し給へる也] *Phil. Com. p. 170.* 斯る場合に於てイエスの驚けるとい吾人之を怪しむを要せず之れ彼が真正の人情を顯せる一証據也] *Van. O., p. 111.*

(八十八)(七〇一十)吾人の此本文を太八〇五—十三と比較してルカ

の此記事の出處の馬太の記事の出處と異れるとを斷言せん

(引証)兩記者の記事に關する精細なる比較の載せてエダーシ

エーム氏著 *Jesus the Messiah, I., pp. 544-548* に在り

(八十九)(七〇十一)是時イエスの大に人望を博しおろし也其の衆人の群衆せしを見ても知らる

(九十)(七〇十六)人民の尙イエスをキリストとして認めざりし也(九十一)(七〇十九、十八)イエスの所業方法の其傳道上の重任に關してヨハ子の心に疑を惹起したるものゝ如し

(引証)ヨハ子のキリストを人民に紹介して彼のイスラエル人の潔めらるべき神政の審判を成遂げんとする審判者ありと

公言せり如斯嚴肅に公言されたるキリストの今の唯慈善事業を爲し病人を醫やすとを爲すに過ぎず抑もキリストの事業の斯る事に縮小せしにや」Godet, I., 474 (in substance) 又 Fairbair, Luke, pp. 148, 149. を見よ「吾人のヨハナが我儕の主の爲人に關して疑を懷きたりとい斷じて信する能はず中略之れ寧ろ彼が待ち遠く思ふ念慮に關する問題なり」Van, O., p. 115.

(九十二)七〇十九)ヨハナが此疑問を起せし事のイエスの事業の新奇的本源的の証據也

(九十三)七〇廿二)イエスの其傳道の重任を負へるとの証據として奇跡其者よりの寧ろ奇跡の性質即ち其中に含まれたる仁愛を顯はさん爲に奇跡を用ゐたり

(九十四)七〇廿四—廿七)イエスの人民に諭告するに最も能辨なる者の口調を以て話されたり

(九十五)七〇廿九)卅)イエス明言して曰くヨハナの職の (一)預言者たる彼に聽き彼を崇敬する下流の人民中に在て大なる働を爲し (二)治者たる上流社會より公然反對せられんと(リン
ドセイ氏)

(九十六)七〇卅二)此遊戯の謎の種類なり

(九十七)七〇卅二)イエスの恐く此小兒の遊戯を目撃し且つ之と遊戯を俱にせしなるべし

(九十八)七〇卅三、卅四)ヨハナの世の快樂と遠かりおりしにイエスの人生の間に交りし也

(九十九)七〇卅六、四十四(縦令シモン)の此(この)響應(きやうおう)に於て甚だ冷淡(れいたん)なりしもパリサイ人の此時(このとき)全然(ぜんぜん)イエスに反對(はんたい)しおらざりしや明(あきら)か也(なり)

(引証)イエスが斯(か)く冷淡(れいたん)なる招待(せうたい)を喜んで受容(うけい)れし疑(うたが)ひなく其傳道(そのでんどう)に本(もと)けるものにして則(すなは)ち已(おのれ)に克(か)ちし也(なり)イエスの避(さ)くべからざる必要(ひつた)あるにあらざるよりの特にパリサイ人を擯(ひん)斥(せき)するを欲(ほつ)せざりし也(なり)且(かつ)説教(せうけう)を講壇(こうだん)に聽(き)くを欲(ほつ)せざる者(もの)と雖(いへ)ども食卓(しょくたく)に坐(ざ)して親(した)しく談話(だんわ)する時(とき)の不知(しら)ず識(し)の間(ま)之(これ)に福音(ふくみん)を教(おし)ふるの機(き)會(かい)あるを知(し)り給(たま)へし也(なり) *Luc. O., p. 124.*

(百)七〇(四十)人の心(こころ)にある秘密(ひみつ)の念慮(ねんりよ)を明(あきら)かに洞察(どうさつ)したるが如(ごと)し(百)一七〇(四十四)一(四十六)社交的(しゃうたうてき)響應(きやうおう)の風習(ふうしゆ)の茲(こゝ)に明(あきら)かなり

(百)二七〇(卅六)一(五十)此(この)物語(ものがたり)の獨(ひと)りルカ(ルカ)の福音書(ふくみんしょ)に録(しる)さる(Bar-
rar, Luke, p. 154; Lindsay, Luke I., pp. 116, 117. を見よ)

(百)三(七〇)四十四一(四十七)イエスの茲(こゝ)に比較(ひかく)照應(せうおう)の文体(ぶんたい)を以て話(はな)せり (*Barrai, Luke, pp. 157, 158. を見よ*)

(百)四(七〇)四十七)此(この)婦(よめ)の其(その)罪(つみ)を赦(ゆる)されたる時(とき)イエスに對(たい)して最(もつと)も暖(あた)き愛情(あいせう)を懷(いだ)さしか(バイ)イエスの之(これ)を嘉(よみ)して懇(ねん)ろに慰(なぐさ)められき

(引証)イエスの言(げん)外(ぐわい)の意(い)の大(だい)体(たい)左(ひだり)の如(ごと)し中略(ちゆうりやく)是(こゝ)故(ゆゑ)にシモンよ人々(ひとびと)の中(なか)に於(お)いて感(かん)ずる我(われ)の興(き)味(み)及(およ)び其(その)仲(な)間(ま)に居(ゐ)て感(かん)ずる我(われ)の愉快(うけが)いを了(り)解(かい)せよ我(われ)の斯(か)く如(ごと)く暖(あた)かに忠實(ちゆうじつ)に熱心(ねつしん)に愛(あい)せられんと欲(ほつ)す今(いま)此(この)席(せき)に於(お)いて汝(なんぢ)に待(たい)遇(ぐ)せらるゝ如(ごと)き緩慢(くわんまん)あして

冷淡なるを欲せず我の多く愛せられんを希ふ我が大に誤れる人々と關係を有するの蓋し之が爲め也我の其大に誤まれる者が一旦改心したるときの大に我を愛するを見る云々
Bruce, Galilean Gospel, pp. 93, 94.

第三 學課の題目

(一)驚くべき新奇の事(八十四―八十九を見よ) 七〇二―十及び七〇十一―十七の出來事を充分に考察せよ (二)出來得る丈け善く詳細なる事實を心に留めよ(葬式の有様の Eidersheim, I., pp. 553-558. に明記せらる) (三)七〇二―十の物語を太八〇五―十三と比較せよ (四)約四〇四十六―五―三に録されたる之と均しき場合を視よ之れ同一の出來事なるか(是等の物語

の出處の全く同一也] Weiss, II., 48. 若しも此二ツの物語が同一の出來事に關するものなりとせば此福音書に云へる詳細の事の毫も信するに足らず Godel, Tulse, I., p. 456) (四)各出來事がルカの物語の文學的性質及び其獨立なるとに何等の裨益を與へしやを考定せよ (五)七〇二―十に於て (一)離れて醫せし事 (二)信仰(は)イエスの驚き等に注目し七〇十一―十七に於て (一)イエスが初めて死人を甦せし事 (二)死人にの信仰なかりし事(引証)然らば(死人に)信仰なかりしとせば(死人と)イエスの關係如何ゴデット氏著書一卷四百七十二ページに曰く此場合に於て想像し得べき事の唯寡婦の獨子なる此少年が臨終の時生を得んどの熱心なる願望ありしに因ら

ずんばあらずと云ふ事は也と又 Ebersheim, I, p. 557. に曰くイエスと死人との関係の寡婦なる其母の深き悲歎に因れりと又 Trench, Miracles, p. 197. に曰く其母に對する同情同感が此大なる精神的行為の主動力なりと想像するの誤れり中畧之れ疑もなく此少年の精神の再興にして之をして一層高尚なる生涯を得せしめんが爲め也と (は)イエスの愛情に訴ふる事(に)一語の下に復生せし事等を視察すべし (六)是等の出來事が如何にイエスの品性を顯ひせしやを視よ(引証)強き自信の價値の異教徒に行されたる救主の奇妙なる權能を感ずる事並に離れて居らるゝも唯一言を下し給ひらば其願望を達するに充分なりと期するに在て存す Van. O., p. III. 第二の物

語の救主の心の柔和なる事及び人の悲哀に同情を表して行せる權能が最も明に顯ひされたる事なり Godet, I, 467. (七)奇跡の目的に關して考定する所あれ(引証)死人を復生せしめたる事の我儕の主が生を與ふる能力を有せる事の表徴なり Van. O., p. 113. 此場合に於ては多くの他の場合に於ける如く其奇跡はイエス傳道の天職を人に知らせんが爲めの目的に出でしに非ず却て人の難儀に暖き同情を表して之を憐む心より行されし也 Pul. Com. p. 171. (二)同時代の人に對するイエスの批評(九十五、九十八を見よ)(一)ヨハネに對するイエスの批評(七〇廿四―廿八、卅三)(引証)言顯ひされたる判断の一人に對してより寧ろ一時代に對して

の判断なり之れモーセに因て與へられたる律法に對する判断也而して律法に關する最後の預言者と神の御國に屬する至微者との間になされたる比較(舊約と新約の比較)の律法は天の聖政に劣るものなるを意味す Bruce in the Expositor, I, p. 101. 是等の語の管にバプテスマのヨハネに對するキリストの意見を明にせるのみならずしてキリスト教に關して舊約を説明せるものなるが故に緊要なる二重の意を含有す Neander, p. 200. (5) 智識威嚴に於て舊約中最も大なる者として(る)神の御國の先驅者として然れども之に屬せざる者として(引証)或意味より云ふヨハネの救主の王國に屬す中畧其職の王國建設の準備に在り而して其位置の威嚴の點より

云ふも特權の點より云ふも王國に屬する至微者に劣る Bruce, Mathew, p. 241. 又 Farrar, Luke, p. 151. を見よ(は)故に智識特權に於ての王國に屬する至微者よりも小なる者として(或)曰く此本文の單に大預言者たるヨハネの信者たるヨハネよりも小なる事を意味するに非ずやと(三)人民を一体として之に對するイエスの批評(七〇卅一―卅四)(5)浮薄無責任なるも(引証)當時ユダヤの凡ての宗派社會の同一の精神の勢力の下に在りき其精神の腐敗せんとする時代の精神にして腐爛の日近きに在りし也 Bruce, Parabolic Teaching, p. 417. (る)尙ほヨハネ及びイエスが宣傳せし眞理を受容る者なきにあらざりし事(三)自己に對するイエスの批評(七〇卅四)太十

一〇廿七の之に關す就て見るべし

第四 宗教的教訓

此章の重なる教訓のイエスに就ての種々の思想にわらずや

(一)イエスの奇跡を見て惟驚き恐れる事(十六節) (二)イエスの救主たるを眞面目に疑ふ事(十九節) (三)其權能を篤信する事(六一節) (四)利害の觀念の皆無なる事(卅一―卅四節) (五)宗教的感謝と愛(卅六節より五十節まで)

課程第十五、第十六

ガリラヤ傳道の幸運

(自第八章一節至五十六節)

(注意)各課程を學ぶに當り (一)前課程の材料を再閱し (二)現課程として定められたる全節を通讀して其事柄の重なる部分を

了知するを要す

(二) 材料の考試

左の順序の常に此學課を欠くべからざるものと知るべし (一)一節或の一句を讀で其大体の主意を領する事 (二)大切なる語句或の難解の語句を考究する事 (三)一節或の一句の主意を解し大切或の難解の語句を考定して而して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯はす事(四)宗教上の教訓を學ぶ事

其一 (八〇―一三)

(一)之を讀で其主意を記憶せよ、イエスの巡廻傳道是也 (二)左の語句の大切にして考究するを要す、(一)“went about”一週遊りて恐く之れカペルナウンに於ける生活より一轉して巡

廻傳道を爲し始めたるを云へるならむ (二) "preaching" 宣傳
 以下云ふ所に由て説明せらる (三) "Magdalene" マグダラの
 即ち Magdala マグダラてふ所よりの意也而して何處乎 (四)
 "seven devils" 七の悪魔七ツの全數にして之れ悪魔に憑れたる
 との最高度を指示す (五) "Herod" ヘロデの即ヘロデアンチバ
 ス (六) "ministered" "substance" 所有を以てイエスに供事へた
 りき云々 イエス及び十二人の使徒が因て以て活計を立てし
 財産

(三) 左に省約して云ふ所を學べ

イエス十二人の使徒及婦人等と偕に郷邑を周遊して巡廻傳
 道を爲す此婦人等のイエスの瘡やす所となりし者にしてイ

エス主従に其活計の料を供給せし者也

(四) 恩に感じ報ゆるに所有を以てして事へしとが如何に福音傳
 播の手段となりしかを視よ

其二 (八〇四—十八)

(一) 之が主意のイエスの譬喩教訓にわらずや

(二) (一) "great multitude" 大衆入望ありしとの表徴路六〇十七同七
 〇十一廿四を参考せよ (二) "way side" 路旁とい即原野を通
 る道路六〇一を参考せよ (三) "rock" 石とい岩の上の礎地 (四)
 "ears to hear" 聽ゆる耳有る者の聽べしエダの教師が特に注意
 を惹くときに云ふ言 (五) "mysteries" 奧義之が意味を知らんが
 爲に羅十六〇廿五哥前二〇七—十弗一〇九十等を参考せよ

(い) 怪異の事にわらず (ろ) 多數者に秘密にして獨り撰まれたる者にのみ示されたる智識 (は) 人の智慧を以て發見し能はずと雖も正廉篤信なる凡ての者に天より啓示せられたる福音の奥妙なる真理 (六) "Lo the rest" 他の者に「人望ある教訓の新方法ヲ初まりける (七) "that seeing they may not see etc." 視ても見えず云々」(い) 希伯來の俗話(賽六〇九を参考せよ)之れ "see on seeing" 「見つくある」の意か或い see clearly 「明に見る」の意か (ろ) 太十三〇十三を参考して文体の相違を言顯いせ (は) 如何に之が思想を解釋せんか — イエスの目的として之を解釋せんか 將た人間の横邪に恰當する結果として之を解釋せんか (八) "nothing is hid etc." 隠れて現われざる者なく云々之れ

此教訓に關して云へるものにして隠るゝの則ち眞理を啓示せんが爲め也 (い) 之を受容れんと欲する者に (ろ) 藏さるゝに因て激發する熱心家に (は) 彼等が他の者にも之を知らしめ得んとの爲に (三) 之を省約して左の如く云ふを得ん 彼譬喩を以て衆人に教へて曰く種まく者四種の地味に播くも唯其一のみ好結果を得るに過ぎずと衆に拔んでられて特に知遇を辱ふしたる弟子等此譬喩のイエスの教訓を聽く人民の階級に就て云へるものにして其一の階級に属する者と偕に働く彼が事業の結果永久に亘りて要用なるものなるを告げられたり彼又曰く「我の教訓の燈の如く光を與

へんが爲め也是故に善く聽け爾等の生長して世に用を爲す
の一に此教訓に依らずんばならずと

(四)之が宗教的教訓として學ぶべきもの何ぞや

其三 (八〇十九—廿一)

(一)之を讀で其主意を言顯ひせ之れイエスの親戚彼を見舞ひし
事にあらずや

(二)學生宜しく之が大切なる語句を考究すべし

(三)左の如く省約して云ひ如何

イエスの親戚彼を見んとを求めしも群衆に遮ぎられて其意
を得ずイエス之を聞きて公言すらく神に従ふ者の我の親屬
なりと

(四)イエスと親屬たるの關係の其聖語を服膺するとに在りて存
す

其四 (八〇廿二—廿五)

(一)學生宜しく之が主意を言顯ひすべし

(二) (一) "One of those days" [其時の一日] (5) 明確ならず (6) 可四〇

卅五、太十三〇一を参考して一層明白なる言顯を見よ (二)

"other side" [前岸] 何處乎 (三) "fell asleep" [寝たり] 何故乎 (四) 廿四節

彼等が心の有様を考へ見よ (五) "rebuked" [斥しめければ] 此時イ

エスの觀念の如何なりしや (六) "faith" [信] 太四〇四十を参考せ

よ、イエスの信仰の如何なる種類を望まれしや (七) "afraid" [駭

き] (8) 之れ執迷なりしか (9) 使徒等の何故に恐れしや

(三)左の如く省約して云ふを得ん、

其時彼等のイエスの命により湖を渡らんとて漕出でしに颶風起りて舟將に覆へらんとせりイエス寝ねてありしが呼起されて危急を救はんを求めらる是は於て彼風と波とを斥しめて颶風立るを止みしかば彼等の其權能を愕然たり(四)茲に暗示されたる教訓のイエスを識認するも尙以て彼を對する堅固なる信仰の保証をあらざると是也

其五 (八〇廿六―卅九)

(一)是等の節を讀で其主意を言顯せ、之れ惡鬼を憑れたるガダラの本復ふ非ぞや

(二)大切なる語句の左の如し(一)“Gerasenes”ゲラセ人他の譯音を

調べよ(二)“out of the city”邑より出で、乃ち知る其邑人なる

を(三)“fombs”塚創廿三〇十九、民十九〇十六、路廿三〇五十三

を参考せよ(四)“fell down”俯伏し抵抗し難き敬禮(五)“what etc.”

何の與あらんや云々是等の語の精神を記憶せよ(六)“Most

high God”至上神(七)如何にして此句を用ゐしや、創十四〇十

八、民廿四〇十六、使十六〇十七を参考せよ(八)如何にしてイ

エスを識認せしや(七)“commanded”命せし本來は was command-

ing也(八)“name”名此間の目的如何(九)“Legion”レギオン(十)

其意味如何(十一)之れ人の精神の有様を關して何の意味あり

や(十二)“they”彼等との誰乎、太五〇十を参考せよ(十三)“abyss”底

なき所、羅十〇七を對照せよ、陰府の事(十四)“intreated”求ひけ

れ「何故お群衆の中に往かんと欲せしや」此疑問及以下の疑問お關して「左の諸氏の書お就て見よ」(Hawari, p. 174; Lindsay, I., p. 126; Van O., p. 136; Pul. Com., I., pp. 207-208) (之れ善き言顯也) Bruce, Miraculous Element, etc., pp. 188-190.) (十二)「gave them leave」許せり「何故お許せしや」(十四)「entered into」家お入りしか「之れ如何おして出來得しや」(十五)「choked」溺る「イエスの所業上如何お辨解せば可ならんか」(十六)「at the feet」足下「師匠の前お於ける弟子の如く」(十七)「declare」告よ「イエス其所業を秘して言いしめざるを常とす然るお茲おの之お反す」(路五〇十四同八〇五十六太九〇卅同十二〇十六を見よ)其理由の事情の異なるお因るか

(三)學生宜しく是等の節の意志を言顯のすべし

(四)之が緊要なる宗教的教訓の (一)惡魔の勢力より靈魂の救ひ出されたるとの實例と (二)救拯の機會を嫌ふ私慾の勢力と お在らざらんや

其六 (八〇四十一—四十二、四十九—五十六)

(一)是等の節の主意の「ヤイロの女の甦へされたる事」おあらざや

(二) (一)「returned」返へりたるとき「太九〇一」を参考せよ (二)「waiting」佇望て「ルカのみ斯く書せり」(三)「then came」其時來れり

其時期おついて「太九〇十八」を参考せよ (四)「only daughter」獨子の女「ルカのみ斯く書せり」(路七〇十二同九〇卅八を参考せよ

(五)「trouble not」勞のす勿れ「禮讓の言也」(六)「weeping and bewailing」

「哭き哀しみ」ユダ人の慟哭あついで傳十二〇五耶九〇十七、結
 廿四〇十七、代下卅五〇廿五を参考せよ (七)“maiden, arise”「處女
 起よ」之が原語あついで可五〇四十一を見よ (八)“tell no man”
 「誰も告る勿れ」之れ反對者の激昂の高まりつゝあるが故也
 (三)是等の節お含まれたる意思、左の如く云ふを得ん
 イエス待ち望みつゝある衆人の許お返へりたる時ヤイロと
 云へる者來りてイエスお其家お臨みて將お死あんとする女
 を塗さんとを求へり、イエス乃ち人々と偕お之お赴かんとせ
 し、お女既に死ねりとの報知お接す、然れどもヤイロの其女の
 必らず本復せんとを信せよと獎勵せられたり、イエス三人の
 弟子と女の兩親を伴ひて其家お往き慟哭せる人々を慰めて

女お寝ねたる耳なれば安心せよと曰へり、イエス女の手をど
 り一言を發して生お復へらしむ、而して兩親の女を得て此事
 を何人おも告ぐべからずと命せられたり

(四)學生宜しく之が緊要なる宗教的教訓を學ぶべし

其七 (八〇四十三—四十八)

(一)之を讀で其主意を記憶せよ、病める婦の醫されたる事是也
 (二)注意を要する語句の左の如し (一)“could not be healed”「塗され得
 ざりき」可五〇廿六、一層詳お録せるを見よ (二)“touched”「捫
 りければ」之れ (い)執迷なりしか或の (ろ)之お觸るゝの必要
 を平氣お確信せしものか、可五〇廿三、使五〇十五、同十九〇十
 二を参考せよ、(三)“border”「裾」ユダ人の衣お關して學ぶ所あれ

[Eldersheim, *Life of Jesus*, I., pp. 620-626. を詳記せるを見よ又 Stapfer, *Palestine*, etc. p. 190. sq. を参考せよ] (四) "Who is it etc." 誰ぞや云々之れ (五) 其誰なるを告げんとを眞面目に望まれしむや「イエスの其衣を捫りて祝福を受けし者の徳性を就て知る所あらんが爲み且自己の身体より妖怪的勢力の流出せしむる非るとを凡ての者み覺知せしめんが爲み其者の果して誰なるかを明確に知らんとを欲せられしならん」 [Bliss, *Com. on Luke*, p. 159. 又 Bruce, *Mir. El.*, p. 279. を参考せよ] 彼の誰が之を爲せしやを知るも惟、自白よりて其婦の信仰を堅めんとせられしものと如し「云々 Eldersheim *Jesus*, I., 628] 神人の兩性を有せるイエスの奇跡的知識の魔術非ざる而して其疑問の決して假

作にあらざりし也」 [Van. O., p. 140. 若しもキリストが其癒したる事を知らざり又誰を癒したるかを知らざりしならば其行為の魔術的にして主たるお不相應なるが如し] [Olshausen, *Com. I.*, p. 387. 或る婦を導いて自ら現れ出しめんとせられしおや (五) "perceived" 覺えられべ「イエスの性質について知り得る所あり (六) "thy faith" 爾の信仰 (七) 信仰の度と品位 (八) イエスの之を賞讃せし乎 (九) 學生宜しく之が意志を言顯すべし (十) イエスの眞の品性を知らざる事の (一) イエスお對する堅固なる信仰を妨げざり (二) 其信仰の報酬を得るの妨礙とならざり